

主人様の
凶悪大人ち○ぽ♡



メスガキハント
洗脳された美柑ちゃんが
お兄ちゃんの目の前で
大人ち○ぽに壊されるお話

お兄ちゃんの
役立たず
クズち○ぽ(笑)

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

Presented
by 530

「ふう…最近暑いなあ。
スーパーで涼みながら
買い物してたら
つい遅くなっちゃった」



「早く帰って
お夕飯作らなきゃー！
リトも待ってるだろっし」

「君、ちよつと
いいかね」

「え？
は……はら……？」

「ほほ、やはり思った通りだ♡
遠目からでもすぐに二級品
だとわかったよ……♡
この辺りはレベルが高いが
その中でも最上級だ♡」



「こんな暑い日に
おつかいとほ偉いねえ♡
性格もイイ……これは
逸材の予感がするぞ……♡」

「は………？
ええつと……どちら様ですか？
私、急いで帰らなきゃ
いけないんですけど……」

「まあそう慌てるな、
データを見てから決めるから♡
最近のガキは純粹に見えて
何をしておるかわからんからな…
本当に儂の玩具として
相応しいかどうか…」

ス。

「……お、あつたあつた♡
ふむ…美柑と言うのか。
美味しそうなイイ名前だ♡」

「え…!?
なんで私の名前…!?」



「どれどれ…おお、素晴らしい!
身体も熟れかけのちようど食い頃♡
交友関係も広く良好…家族にも
大切にされて育ってきたようだ♡
交際経験は当然なし♡
気に入った——」

「お前を儂の性玩具にしてやろう♡」

「何を言ってる…」
お、大声出してますよっ!

「しかしこの…」
リトとかいう男に対する
愛情値だけ異様に高いな？
実の兄妹だろ？
兄に対する愛情の範疇を
かなり超えてるぞ(笑)」

ス…

「な……!?」
(なに、この人……!?
どうして私やリトのこと…
機械で何かを見てる……!?
なんだか分からないけど、
絶対おかしい……っ!!
110番……いや、
すぐに逃げなきゃ——)

「……お、饜への嫌悪感が
みるみる上がっていく(笑)
よしよし、不審者を
ちやんと警戒できて偉いぞ〜」



「じゃあとりあえず
儂への愛情値を
MAXにするか♡」

がッ

チカ

せッ

チカ

ボクンッ

がッ



「ははは、一瞬で顔が蕩けたな♡
まあ当たり前か、大好きなりト君の
倍以上好きな男が前にいるんだ♡
さつきまであんなに嫌悪感を
示してたのにな〜(笑)」

「あ…え…??♡」

ドドド
ドキキ



「ははは、一瞬で顔が蕩けたな♥
まあ当たり前か、大好きなりト君の
倍以上好きな男が前にいるんだ♥
さつきまであんなに嫌悪感を
示してたのにな〜(笑)」

「あ…え…??♥」

「あとは…そうだな
感度と…」

(えっ?え?
ほてい?)

あっ

ドド
ドド
ドド

ゼクッ

せせ
せせ

「體への服従心…
それにマゾ体質♥」

ガッ
ガッ
ガッ
これ

あっ
あっ
あっ

ゼクッ

キュ
キュ
キュ

「排卵は…おお、偉いぞ
もう始まつてるじゃないか♥
ご褒美に體の前でしか
排卵できないように
してやろう♥」

あ

ガッ
ガッ
ガッ
あ
あ
あ



「よおし、ひとまずこれでOK
現実にはありえない
メスマゾ」の奴隷の完成だ♡」

はぁあぁあ♡♡♡

「ひっひっひ、凄いだろ？
単なる催眠術じゃないぞ。
ナノマシンがお前の脳みそを
直接書き換えてるんだ♡
どこかの研究機関の技術を
盗んだらしいが…何にせよ
便利な時代になったものだ♡」

カ
ル

「昔のように時間がかかる暗示や
薬物で調教するまでもなく、
ワンタッチでお前の人格を
自由に変えられるんだぞ♡
儂のような上流階級にのみ許された特権だ♡

カ
ル

「どうだ？
知らない間に仕込まれた装置に
数秒で儂の性玩具として
生まれ変わらされた気分は♡」

「あ…♡あ…♡あ…♡」

ナノマシン洗脳装置

ナノマシン技術を悪用して開発された、人間の脳を書き換えてしまう洗脳装置。ナノマシンは予防接種などの際、知らないうちに体内に入れている。特定の地域ではほぼ全ての住民が対象。

一部の人間は莫大な金と引き換えに操作端末が購入することが可能で、ナノマシンを操作することで脳から読み取った情報を表示したり、精神的、身体的に改造したりできる。



「すみませんでしたあ、
おじさま——いえ、ご主人様あ♡
私ったらあんな失礼な態度を…
死んでお詫びしますう♡♡」

「ぶほほほ♡
いやいや、使う前に死んでどうする(笑)
せつかくのJ〇穴がもったいないだろ♡
心配しなくてもそのうち
嫌でも壊れるから安心しろ♡」

はあ♡

びくびく♡

「それに勝手に
決めたら駄目だぞ？
お前は儂の所有物
なんだからな♡」

はあ♡

「あ♡あ♡そうでした♡
美柑の命はご主人様の
モノでしたあ♡」

どうか消耗品として
ご主人様の欲望を満たすため
存分にお使い潰してください♡」

すい♡

キゅわん♡

「よろし、いい♡だ♡」

「ではさっそく…
と言いたいところだが、
さすがに道の真ん中ではな(笑)
通りがかかる全員を操作するのも、
叫び声で集まられても面倒だ。

よし、もつと人気のない
ところに行くぞ、美柑♡」

「はいっ♡
ご主人様♡」

はあ♡

ウウウ♡



はあ♡

「ひっひひ♡
こんなに可愛い…だけじゃなく
しっかりしていて将来有望な賢いコが♡

確実に犯されると分かっているながら
儂のような知らない中年男性に悦んで
ついて行くマゾメスに早変わり♡っ♡っ♡

キュウ♡♡♡

これが町でする狩りの醍醐味よな♡
暑い日にわざわざ出歩いたかいがあった(笑)
これだからメスガキハント
はやめられん♡」

メスガキハント

～洗脳された美柑ちゃんがお兄ちゃんの前で大人ち○ほに壊されるお話～

Chapter.1 : いきなり洗脳♥→即ガチレイプ♥



「…よし、この辺りだな♡
周りも空き家が多くて
野外レイプに最適らしい♡
隠れレイプスポットだな(笑)」

まったく…この辺りは
ホテルもないのか？

これだから庶民どもの住宅街は…
美柑が可哀想じゃないか(笑)」

「ほれ美柑♡
さつき教えた通りに
おねだり
準備しなさい♡」

世界
地図



レイプマップ機能

人通りが少ない、空き家が多いなど
色々な周辺情報をもとに、
近くの野外レイプに適した場所を
表示してくれる地図機能。
洗脳対象の家や連れ込めるホテルが
近くにないとき、人目を避けて野外で
犯したいときなどに便利。
あえて目立たせたいときに使える
露出マップ機能もある。

「はあい
ご主人様♡」

ぬ

お
し
り
ん
♡

お
し
り
ん

お
し
り
ん



「この度はあ…美柑のごと
ハンドごでいただいで
ありがとうございます♡」

カ
ン
ン♡

ト
ン♡

フ
ン♡

「ご主人様の性玩具に
していただいた感謝を
込めて…♡
私の処女と人生を
捧げますのでえ♡」

「ぶほほ♡」

「ぜひ最期まで♡
遠慮なくお召し上がり
くださあ♡♡♡」



ななで♡
ななで♡

キヤン♡
キヤン♡

トロ♡
トロ♡

セクッ♡

「お前のように
出来のいいメスガキから
輝かしい未来を奪うのは
たまらんからなあ♡
その辺りをきちんとして理解
できとる♡
ますます気に入ったぞ
美柑♡」

「んっ♡」
「よしよし偉いぞ♡
んっ小ぶりでイイ尻だ♡
一度で完璧に覚え
アドリブまで入れて
くるとは…
美柑は賢いな♡」

セクッ♡

「ありがどう♡
↑おっぱい♡」
「しかしなあ…」

「随分と可愛らしい
穴っぽこだな♥」

んんんんんん

ばあ♥

ぬ

てて

てて

せ

あ

「ほれ、目いっぱい
広げても儂の指一本分
しかないじゃないか♥
いちちよ前にヒクつかせ
とるが(笑)」

せ

んんんんんん

「あっ♥あっ♥」

「すみません
ご主人さ」

「これで本当に
啜え込めるか？」



「儂のち○ぽを♡」

ぼろん

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

セキキキ

セキキキ

セキキキ

オハ

はー♡

ハタ

ハタ

「こんな凶悪なの私みたいな○○○に捻じ込もうなんて♡」

「当たり前前だ、儂をそこらのガキと一緒にするな♡
というか見たことあるのか(笑)」

「え…え？すごい♡
ご主人様のち○ぽ
すごい♡♡♡
リトのとは大きさも
形も全然違う♡♡♡」

オハ

「はは、潮まで吹くとは
ほとんど犬だな♡
マゾ度MAXはやり過ぎたか(笑)」

はー♡

「私絶対死んじやう
じゃん♡♡♡
ご主人様、私のコト本気で
壊すつもりなんだ♡♡♡
ステキ…♡♡♡」

キキキ

キキキ

セセセ

「ひっひっひっ♡
悦んで貰えて何よりだ♡

まあ安心してろ、そう簡単に死にはしない♡多分(笑)
ガキとはいえ
オハル
女はち○ぽを受け入れるようにできてるからな♡」

はー♡

オハル必死に頑張りなさい♡

「言っておくが手加減はせんぞ？
もう家には帰れないつもりで

「はいっ♡
命がけて頑張りますっ♡
大人の本気レイプで美柑を
容赦なくぶち○して
くださいっ♡♡♡」

はー♡

「よろし、覚悟は
できたようだな♡
じゃあさっそく…
……あ、一応遺言でも
撮っておくか？(笑)」

「なんだ、目尻っぱい
腰を上げてこの高さか?」

「は…はいっ♡」

申し訳ありません

ご主人様♡

これでも精いっぱい

つま先立ちしてるん

ですけど…っ♡」

「まったく、主人に腰の
高さを合わせるとは…
ガキはこれだから♡
いちいち嗜虐心を
煽ってきおって…♡」

又々

又々

カカ

カカ

ゼーン



「なんだ、目いっぱい腰を上げてこの高さか?」

「は...はいっ♡」

申し訳ありません

ご主人様♡

これでも精いっぱいつま先立ちしてるんですけど...っ♡

「まったく、主人に腰の高さを合わせるとは...ガキはこれだからいちいち嗜虐心を煽ってきおって...♡」

又干

トキ

カハ

カハ

セー

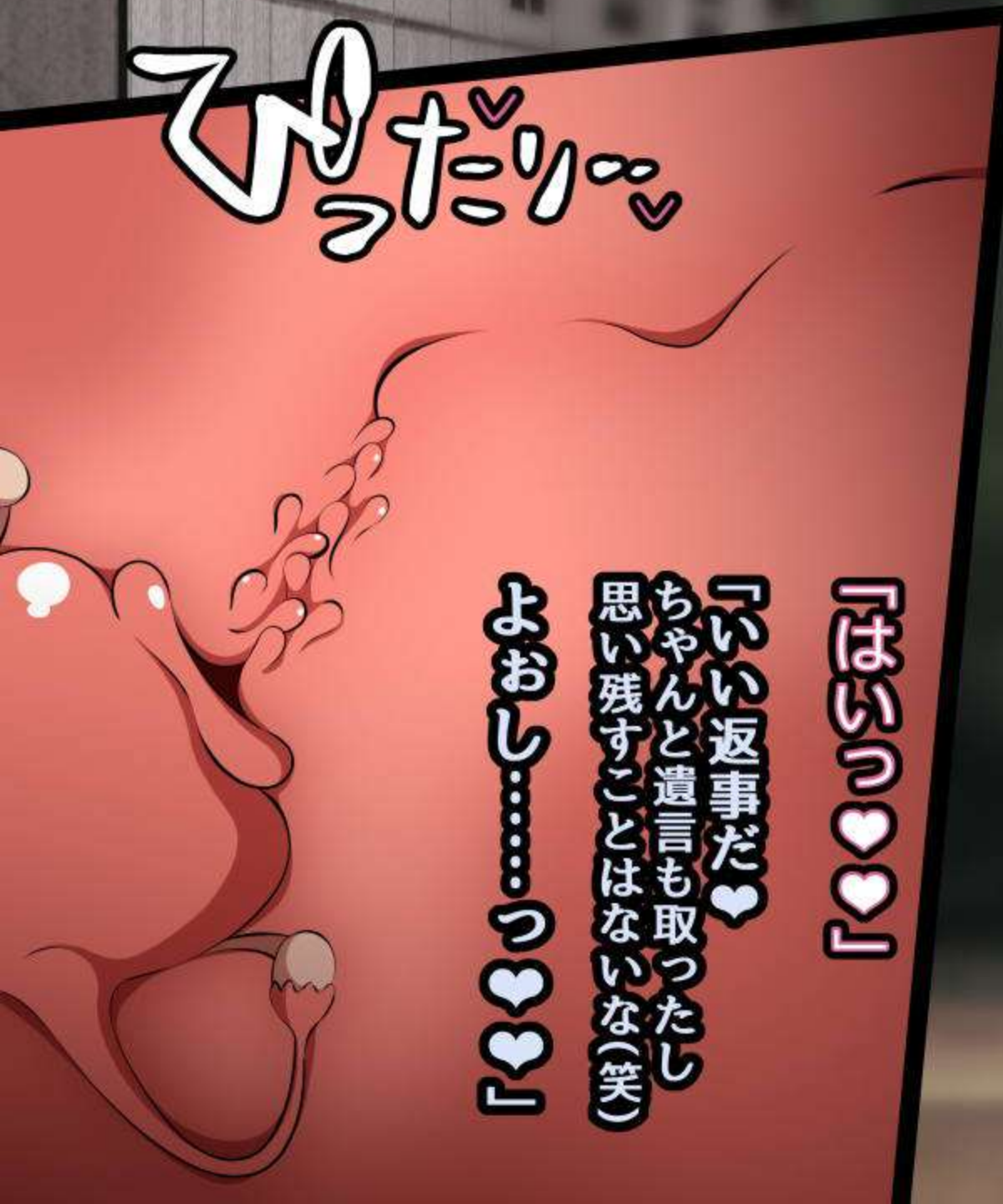
「まあいい、それじゃあ始めるか♡このぴったり閉じた狭っこい穴にち○ぽ捻じ込むぞ♡」

お前の腕くらいあるからな、気をしっかり持てよ♡」

「おっ♡♡」

「いい返事だ♡ちやんと遺言も取ったし思い残すことはないな(笑)よおし...っ♡♡♡」

びりっ♡♡



あはは

「おほほ、この抵抗感
さすがにキツいな…
まずはゆる〜つくり
味わうか♡
このぴったり閉じ切った
膣内を強引に押し広げて
いく感触を…っ♡♡」

ズ
ズ

ズ
ズ

み
ぢ
ぢ

ズ

ズ
ズ



「おーおー、ぎゅうぎゅうに締めつけおつて♡♡♡さすが初モノJIO♡」

ギョー

ちゅっ

「もう行き止まりか？ずいぶん底の浅い窟だなあ、まだ半分も入ってないぞ♡」

「ふうっ♡♡♡ふうっ♡♡♡」

がっ

がっ

がっ

おん

かか子

「どんな規格外ち○ぽでも根元まで啜え込むのが女の義務だ♡」
オナホ
わかってるな？」

「おーおー、ぎゅうぎゅうに締めつけおつて♡♡♡さすが初モノ♡♡♡」

めし

「もう行き止まりか？ ずいぶん底の浅い陸だなあ、まだ半分も入っていないぞ♡」

「ふうっ♡♡♡
ふうっ♡♡♡」

がっ

がっ

がっ

ギャンギャン

お

「っからが本当の処女喪失だぞ♡ 死にたくなければそのまま全身の筋肉をガチガチに硬直させてしっかり踏ん張っていなさい♡」

「は♡はいっ♡
……っ♡♡♡」

「よおし…それじゃあ勢いをつけて子宮まで一気にいら」

「どんな規格外ち○ぽでも根元まで咥え込む

オナホのが女の義務だ♡

わかってるな？」

加子



「ふち抜く♡♡♡」

クエツ

ト

×#

×#

ホホホ♡♡♡



「ひっひいひひっ♡
やはりメスガキを
ち○ぽで串刺しにする
瞬間は堪らんなあ♡」

ゼクッ

ゼクッ

メスガキ

バタ

バタ

「どうだ、死ぬほど
気持ちいいだろ？
美柑は痛みでも悦ぶ
メスマゾJ○に改造済
だからな♡
初めてのガチレイプで
潮を吹けるJ○なんか
なかなかないぞ♡
儂に感謝しろよ(笑)」

ゼクッ

「おらら死ねっ♡
死ねっ♡♡♡」

あっ

「メスガキっ♡♡
大人を誘惑する
変態J〇がっ♡♡
死にかけながら
イキまくりやがっ♡♡」

お
ぐ
ざ
ん

×キ

ぐ
ざ
ん

ぐ
ざ
ん

「ぶち壊すっ♡♡
大人ち〇ぽで徹底的に
ぶっ潰してやるっ♡♡」

ギ
ギ
ギ

ギ
ギ
ギ

ズ
ズ
ズ

ド
ド
ド

「おららっ♡♡
どうだっ!!
おららっ!!」

ハ
キ



グムッ

「薄〜い子宮壁越しに感じる硬い壁の感触と柔らかい内臓の感触のサンドイッチっ♡♡♡」

ぐんぐん

「美柑オナホを挟んでち○ぽを擦る極上のオナニーっ♡♡♡腰が止まらないっ♡♡♡壁オナだな壁オナ♡」

ギョポッ

「ああ〜っ♡♡♡気持ちえええ〜っ♡♡♡無抵抗のメスガキに性暴力叩きつけるの堪らんう〜っ♡♡♡」

ちゅっ

メキ

オギョッ

キョッ

「ほれほれ〜踏ん張らないとすり潰されてしまうぞ〜? あ、地面に足が着いてないのか(笑)」

ドチュッ

ズズッ

あ〜っ♡♡♡

ググッ

「ぶほほほつ♡
痙攣し出したか♡
まあこれだけ腹の中を
かき回されたら無理も
ない(笑)」

ググッ

ズッ
ズッ

ググッ
ググッ

ズッ
ズッ

ググッ
ググッ

「まあ待てっ♡
まだ死ぬな(笑)
いま射精してやる
から…っ♡♡♡」

「お前らメスガキは痙攣
してからがイイんだ♡
陸痙攣で限界超えて
さらにギツチギチに
締めあげてくる肉壁を
ぶつつつ千切り
まくっつてえ…っ♡♡」

ググッ
ググッ

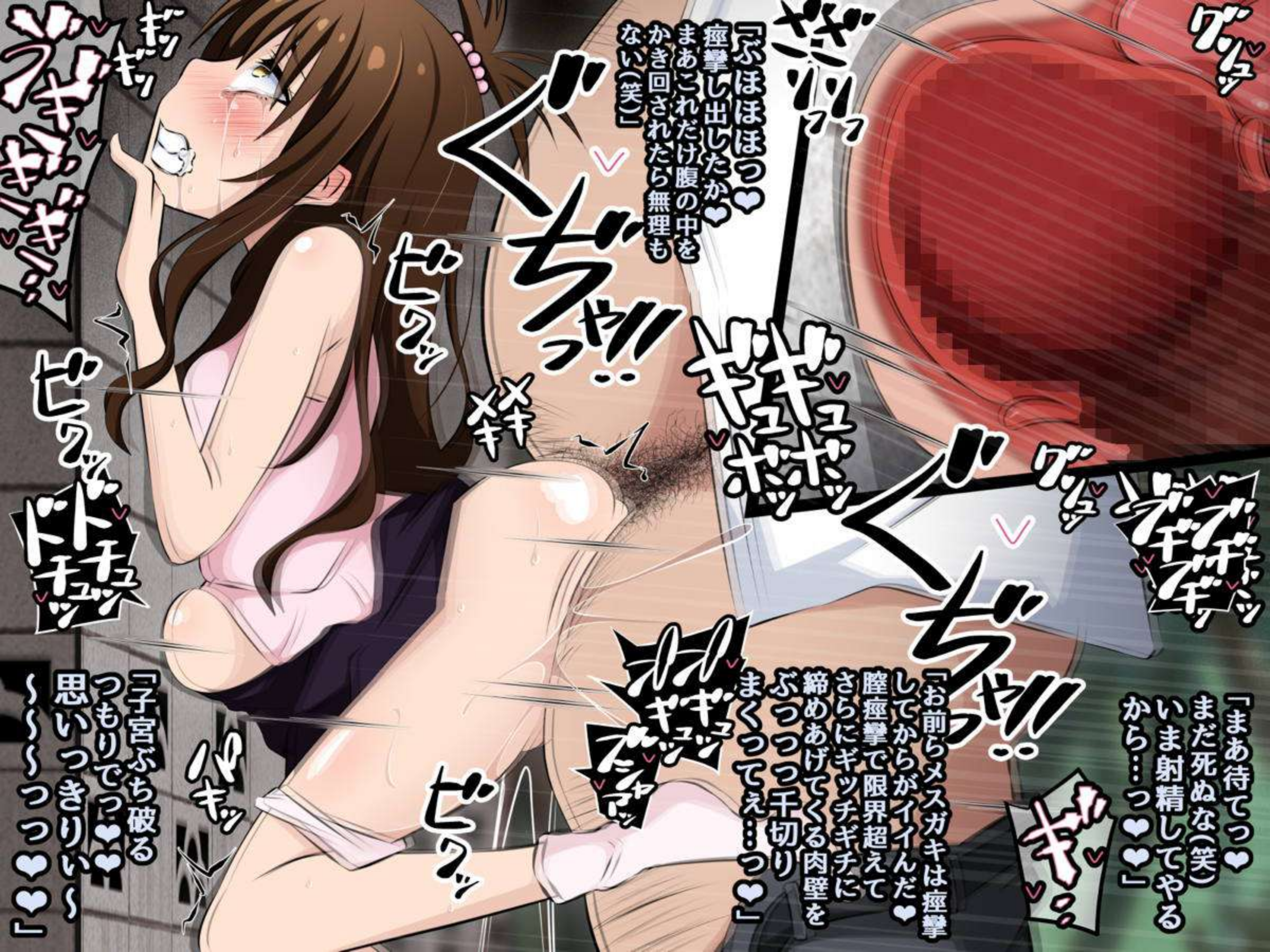
ズッ

ズッ

「子宮ぶち破る
つもりでっ♡♡♡
思いつきりいっ♡
っ♡♡♡」

ググッ
ググッ

ズッ
ズッ



ビュッ
ビュッ

「自分の半分以下の体格
しかない」Oをさらに
洗脳して無抵抗化…っ♡
ちOぼを悦んで受け入れる
状態にした上での一方的な
蹂躪…っ♡♡♡

完全勝ち確チートのレイプで
勝利の射精…っ♡♡♡」

ハム
キツ

「いっせーのーっ♡
いっせーのーっ♡
う~~~~っ♡
おほっ♡
ほおお~~~~っ♡
あ〜最高…っ!!
最高の射精
だあ…っ♡♡♡」

せっ

アッ

ブグッ
あ
せっ
グ
ヂュ
ウウツ!!

「ガキの命を
無駄使いする
オナニーほど
気持ちのいい
ものはないなあ
っ♡♡♡♡」





美柑が買い物に出て
数時間後……

「ずいぶん遅いな

美柑のやつ——

卵が安いから隣町まで

買い物に行くつて

言つてたけど……

やっぱりついて行けばよかった

迎えに行つてみるか……

外も暗くなつてきたし」



母を
殺した

「?誰だ...?
美柑...じゃないよな
自分の家だし」

「おー
んやあなあ——」



「お届け物です♡
なんてな(笑)」

「!?」

?

ガッ

フヤ



「いやあ遠かった。
まさか隣町とは…
ああ、これ買いい物袋(笑)
卵は割れてしまったが
代わりに剥ぎ取った下着
を入れておいたよ(笑)」

「え……!？」

え……

み、美柑……!？」

カラ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

ス
キ
ン

「ああ、安心してくれ
リトくん♥
ちやんと生きてるから
辛うじてだが(笑)」

「あ、あんたは……!？」
美柑に何を——」

ぐちやあ♡♡♡



「いやあ、町でキミの妹を
みかけてね…
あんまり可愛かったんで
ついレイプして
しまつたんだよ♡」

大人げなく性暴力を
何度も何度も
叩きつけてしまった♡」

「そ、そんな……っ!!」

カ
ラ
カ
ラ
カ
ラ

「ああ、誤解しないでくれ?
美柑の合意を取った上での
ガチレイプだからな♡
體に落ち度はないぞ(笑)
なあ美柑?」

は
は
は

ぐ
ち
ゃ
あ
♡
♡

「感謝しろよ、普通なら
その辺りに捨てられる
ところをこうして家まで
運んでやったんだ(笑)
それに本来息の根が止まって
いてもおかしくないのに
こうして元気にピクついて
いるんだからな(笑)」

「ふ、ふざけるな…!!
美柑から離れ——」

ス
キ
ン

ト
ロ

カ
ラ

カ
ラ

「チノマシンの
おかげでな♡」

「!?」
（か、身体が……!?）

「はは、動けないだろ？
本来は医療用の技術も
今はこうして悪用
されているわけだ（笑）」

カウ

「さて、本題だが…
わざわざ家まで来たのは
実は美柑のことが少々
気に入ってしまったってね？」

しばらくここに住み込みで
完全に壊れるまで
使い倒そうと思うんだ♡
リトくんにはその間の
お世話係をお願いするよ」

「なに、言っつて……!!!」

「無駄無駄（笑）
キミも儂に逆らうことは
できないんだよ」

（？）

ぐちゃあ♡♡♡

「意識は残じてやるが
身体は儂の許可した
行動しかとれないよう
に調整したからな♡
オナニ|すら自由には
できないぞ（笑）」

「……………」

「……はは、そうか
許可せんと話せも
しないか（笑）」



「……よおし、それじゃあさっそく食事でも作つてもらおうか♡」
見での通り、美柑を使つて激しい運動をしたせいで腹が減つてしまつてな♡
ここまで引きずつてきたのにまだ溢れてきおる(笑)」

「……!!!」

「そう睨むな、美柑なら大丈夫だ。あちこち骨折もしてるだろうが放つておけば勝手に治るようにしてある(笑)」

カラ

お

ちや

お

お

ぐちやあ♡♡♡

「そんなことより主人の空腹の方が一大事だ♡」

「……!!!」

お

お

お

お

お

お

「さあトリくん
「かしこまりました」
と言ったあと、
住み込みで妹を
使い潰してやる
體に挨拶しなさい(笑)
感謝の言葉を添えてな♡」

「か、かしこまりました…
わざわざ家までお越し下さり
あ、ありがとうございます…」



ぐちやあ♡♡♡
♡♡♡

「み、美柑が潰れるまで
…どうかよろしく…
お願いします…」

「ぶほほほっ(笑)
こちらこそ
よろしく(笑)」

「さあまず食って…
それからまた犯すぞ♡」

男に食事を作った後——
俺は美柑の『遺言』を見せられた……

『やつほーリト〜♡
見てる〜？美柑で〜す♡
遅くなつてごめんね〜♡

突然だけどお…私、
これからご主人様にレイプ
されることになつたから♡』

「J〇がしていい顔
じゃないぞ美柑(笑)」

はあ♡
はあ♡

「ご主人様に壊されるの
すっごく愉しみでえ〜す♡
あ、このままレイプも撮影
してくれるみたいだから♡
もし私が死んじゃつたら
それ見て泣きながら
いっぱいシヨシヨ
してくださいさ〜い(笑)」

『わかる？
さつき会つたばかりの
大人にくつちやぐちやに
犯されちゃうの…♡♡♡
ご主人様とはかな〜り
体格差があるから…
もしかしたら私、
死んじゃうかも♡♡

はあ♡
はあ♡

ズクズク♡
ズクズク♡
ズクズク♡

『もし運よく私が
生きてたらあ……♡』

そして…俺が次に
命じられたのは——

だから遺言撮らせてもらひんね♡
ご主人様って優しいわ♡♡♡

男に犯される
美相でオナニー
することだった…

『目の前でレイプ
されてる私を見て
泣きながら
いっぱい「ムン」
してくださいさ〜い♡
じゃあね〜(笑)』



「ふんっ!!」
ふんっ!!
ふんっ!!
ふんっ!!

ズ
ン
ッ
ズ
ン
ッ
ズ
ン
ッ

ぐ
ちゃ
ちゃ

はあ
ク
チ
ク
チ

はあ

ク
チ
ク
チ

ク
チ
ク
チ

ク
チ
ク
チ

「ほっほほほっ♡
やはりエエのおの
美柑のま〇こは♡
今まで食べたメスガキ
の中でもかなり上だ♡

この治りかけの
柔らかいのを
壊すのがまた
いいんだ♡」

「ほれしつかり
見とるから
リトくん♡」

「キミのベッドで
可愛い妹が押し
潰されとるぞ♡
助けなくてイイのか(笑)」



はあ

クチュ

「んんん♡
んんん♡
んんん♡」

はあ

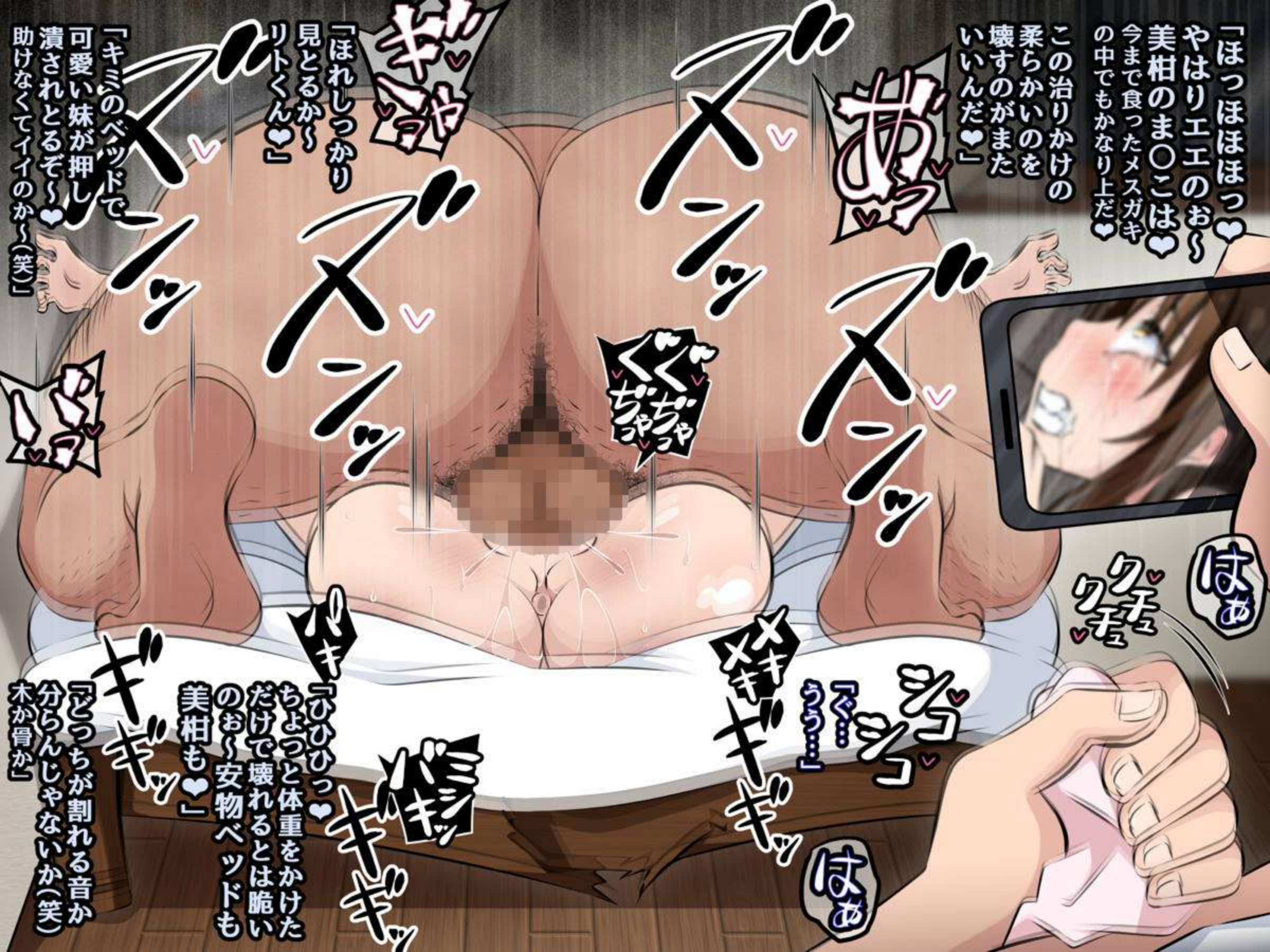
ぐちゃ

キッ

キッ

「ひひひ♡
ちよつと体重をかけた
だけで壊れるとは脆い
のおゝ安物ベッドも
美柑も♡」

「どつちが割れる音が
分らんじやないか(笑)
木か骨か」



「♡♡♡♡」

「はは、もう射精たか？
どうだ、妹のパンツに
精液漏らす気分は(笑)
これからキミが使つて
いいズリネタは
美柑それだけだぞ♡」

「今のうちに
目一杯シコつて
おきなさい(笑)」

「ほれ手を止めるな♡
これから體の許しなし
には抜けないんだぞ？」



世世
ククク

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

ぐちゃぐちゃ

♡♡♡

♡♡♡



「♡♡…♡♡」

「はは、もう射精たか？
どうだ、妹のパンツに
精液漏らす気分は(笑)
これからキミが使つて
いいズリネタは
美柑だけだぞ♡」

「今のうちに
目一杯シコつて
おきなさい(笑)」
「ほれ手を止めるな♡
これから體の許しなし
には抜けないんだぞ？」



クチュクチュ

クチュクチュ

「今から體も
美柑の腔内に
ぶちまける
からな♡
キミも一緒に
もう一度射精
するんだぞ♡」

「ははは…」

ぐちゃぐちゃ

ハキ

キキキキ

「よおし♡イクぞ…
イクぞお♡」

「ぐひひ♡
ほれ、せいのっ」

ギキギキ

お

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

お

「っはあ〜っ♡
あ〜たまらない♡
妹のパンツで
シコる兄の前で
妹に膣内射精♡♡

目の前で妹が
壊されてるのに
泣きながら
射精するしか
ないとは可哀想
になあ〜(笑)」

「……うっ……うっ」
「これで身の程
がわかったら？
美柑が儂の
性玩具になった
時点でキミの
人生も決まった
んだよ。
儂に一生仕える
童貞人形にね(笑)」

がう

おっ♡

ビビ
ルル
ルル
ルル
ルル

びび
ん

ビビ
ビビ
ビビ

がう

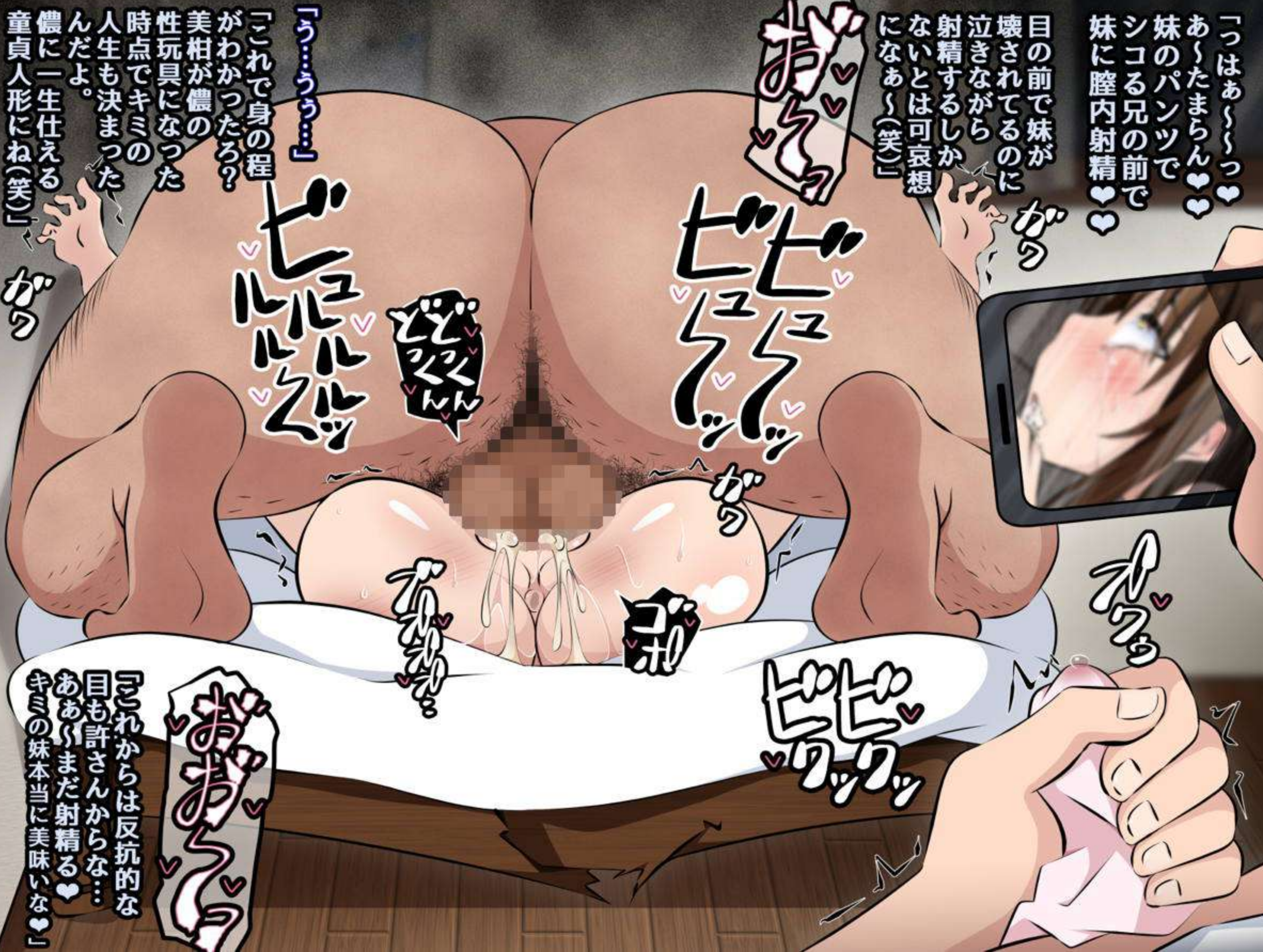
おっ♡

ビビ
ビビ

おっ♡

おっ♡

「これからは反抗的な
目も許さんからな…
あぁ〜まだ射精る♡
キミの妹本当に美味しいな♡」



「いやあすまんね、
儂がキミの妹
くらいのメスガキを
徹底的に壊さないど
興奮できない性癖な
ばっかりに♡
キミたち兄妹の
人生を台無しに
してしまつて(笑)」

んおっ

「まあ運が悪かつたど
思つて諦めてくれ♡
上流階級に奉仕するの
も下民の役目だろ」

「儂も…ぶふ♡心苦しいよ…
美柑は本気でキミのことが
好きだつたみたいだからね♡
もう書き換えて
しまつたが」



ビュルルルル

ビュルルル

びゅん

ゴホ

ビュルル

オウ

「だからこうして
行き過ぎた兄妹愛を
矯正してやつてるんだ♡
その点は感謝してくれ
たまえよ♡」

まほ

「ぐ……はい…
ありがとう…
じゅんまほ……」

がう

がう

てんてん

その日は結局十回…
男が美柑に射精する数
より多く美柑のパンツ
に射精した…

後になって
(ナノマシンで)
回復した美柑に…

「全部足しても」主人様の
「発より少ないじゃん(笑)」
と笑われた頃には…

俺の中にはもう…
『主人様』に反抗する
気力は残ってなかった…



その日は結局十回…
男が美柑に射精する数
より多く美柑のパンツ
に射精した…

後になって
(ナノマシンで)
回復した美柑に…

「全部足しても」主人様の
「発より少ないじゃん(笑)」
と笑われた頃には…

俺の中にはもう…
『主人様』に反抗する
気力は残ってなかった…



Chapter. 2 : 人権無視の性処理生活♥

あれから一ヶ月——
俺はリビングで寝起きしている。
俺の部屋、美柑の部屋、
両親の部屋などは全部
あの男——『ご主人様』が
使うことになったからだ。

過ぎになると
はご主人様に食事を
ついでいかなければならない。
日は……俺の部屋だ。

あれから一ヶ月——
俺はリビングで寝起きしている。
俺の部屋、美柑の部屋、
両親の部屋などは全部
あの男——『ご主人様』が
使うことになったからだ。

昼過ぎになると
俺はご主人様に食事を
持つていかなければならない。
今日は……俺の部屋だ。

「失礼します……..
お食事を…お持ちしました」

コンコン

「おお、リトくんか♡
入りたまえ」

「はい……」

そして、
ご主人様がいる
部屋では必ず――

美柑が犯されている...

「ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡」

トゲッ♡

トゲッ♡

トゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

ゲッ♡

「あ、リトくん♡
悪いが食事はその辺に
置いていてくれ♡」

「今は美柑を美味しく
頂いているんでな♡」

ぎゅっ♡
ぎゅっ♡
ぎゅっ♡

げっ♡



「はー……」

俺と美柑はいつの間にか
仕込まれたナノマシンで洗脳され、
『ご主人様』に逆らえなくなった…

ドグジュツ

ドグジュツ

学校にも通わせて
もらえずに
四六時中犯され、
壊されているのに…
とても幸せそうだ。

ギ

ギ

ギ

美柑

美柑

美柑

グジュ

グジュ

美柑は人格ごと脳を改造され、
完全にご主人様に服従している…

そして俺は…
身体の内側だけを奪われ、
それを見せられている…

グジュグジュ…

美柑



「いやあ〜寝起きに軽く一発のつもりだったのだが…つい本気になってしまつてな♡」

ドグジュツ

ドグジュツ

ドグジュツ

ギ

「特にキミのベッドだと格別でねえ♡美柑の抵抗感が何故か少し強いんだよ♡さすが元想い人の部屋といつたところかな♡」

ギ

グジュ

グジュ

グジュ

ギ

ギ

ギ

「やはりメスガキは大切に育てられた家でぶち犯すのがイイ♡」

「こんなに拙い抵抗をされると…ひひっ♡ついちのぼにも力が入ってしまうな—っ」

ギョウウウ…

ギ



「♡♡♡♡」

びびり♡

ぽっ!!

キゅるるるる
がががががが
キュキュキュ
アゲアゲ

「み、美柑……っ」

「すまんなリトくん♡
大切な妹をち○ぽで
貫いでしまって♡
死んでしまう前に
ナノマシンで修理する
から許してくれ(笑)」

ど♡

アゲアゲ

「あゝしまった、
またヤツたあ……♡
つい力任せに子宮を
ぶち破ってしまった」

♡♡♡♡

「love♡
内臓に直射精
最高おっ♡」

♡♡♡♡



「さて、
すつきりしたところで
食事にするか……
なあ美柑♡」

ど
ほっ!!

キゅるるる
ががががが
キュキュ
アキッ

「え……」

「そういえばこの二ヶ月
一度もオナニー許可を
出していないかったね?
忘れてたよ(笑)」

せつ

おん

「リトくん♡
せっかくだから
今日はキミも
残りなさい♡」

「これから美柑に
餌をやるから♡
それ見てシコって
いくといい(笑)」

せつ
おん



※ご注意※

**このあと歯なし描写があります。
(ファイルNo.【202】,【302】,【304】)**

**血は出ませんが
苦手な方はご注意ください。**

「そうだ、面白いものを見せよう♥
ナノマシンを使えば
こんなこともできるんだ」
「え……？」



「ほれ、手を出しなさい」

「!?!?」

「ご、これって…!?」



「ひっひっひ♥
よし美柑、
見せてみる」
「み、美柑……!?」
「は、はひ…♥」

「ひっひっひっ♡
ナノマシンを使えば
手術いらすとこのわけだ♡
見る、この抜けたばかりとは
思えんっるっるの歯茎♡
気持ちいいぞ♡これは♡」

「.....!!」

はー♡

はぁ♡

「あゝそういえば
抜けた永久歯は
元には戻せないが
構わんよな？
いくらナノマシンでも
なくなつたものは
作れないからな」

くちあ

「儂のちのぼを入れるには
美柑の口は小さすぎでな...
捻じ込むとどうしても
歯が当たってしまうのが
前々から難点だったんだ♡
これで解決だな♡」

ぬ♡

はー♡

「すまんね、また
事後承諾になつて♡
せめてソレは君が大切に
持つていてやってくれ(笑)
使った期間も短いから
綺麗なもんだろ♡」
「う...うう...っ」

「おおっっ♡
ほっほほお♡
いいっ♡
イイぞお♡
いっいオナホだっ♡
こりこりの歯茎を
根元で感じながら
みつちみちの喉で
ち○ぽをぎゅっつと
絞り上げるっ♡」

ギョーッ♡
ほっ♡

ギョーッ♡
ほっ♡

「美柑に空いてる穴は
どこも一級品だなあ♡
キミも兄として
誇らしいだろ
リトくん♡
これが美柑の
正しい使い方だ♡」

「ぐっっ」

ギョーッ♡
ほっ♡

ギョーッ♡
ほっ♡

ギョーッ♡
ほっ♡

ギョーッ♡
ほっ♡

「よく見る♡
ほれごうっ♡
こうするんだっ♡」

「いんな…っ
これじゃあ
息が—」

「息？」

もちろんできてる
わけないだろ(笑)」

ゴキョ
ゴキョ
ゴキョ

ゴキョ
ゴキョ
ゴキョ

「それが
いいんじゃないか
儂のオナニー一発に
メスガキがいちいち
命を懸けるのが♡
ほれほれ
早く精子絞らんと
死んでしまおうぞ♡」

キキキ

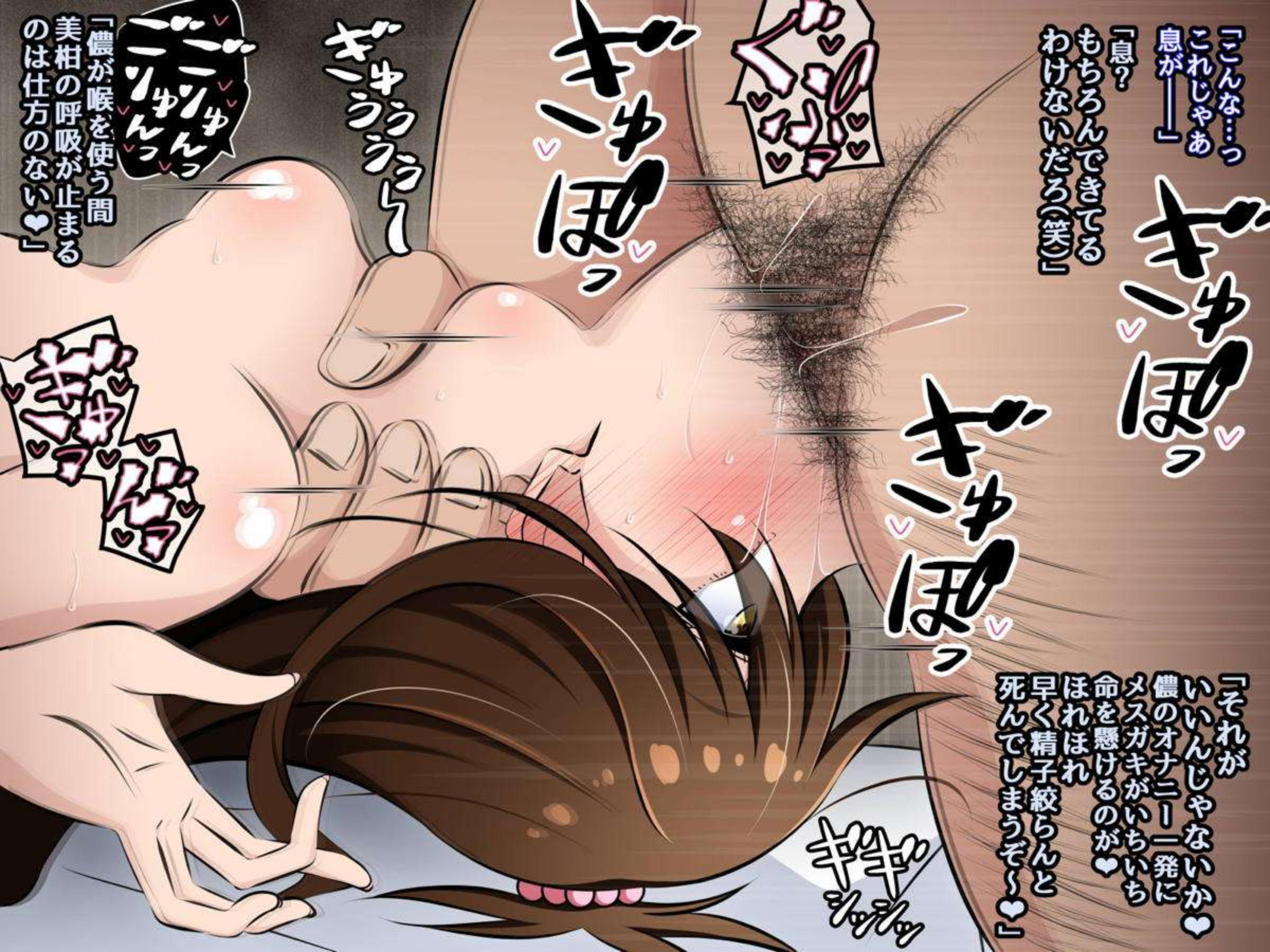
ゴキョ
ゴキョ
ゴキョ

ゴキョウウウウ

「儂が喉を使う間
美柑の呼吸が止まる
のは仕方のない♡」

キキキ

キキキ



「おっ♡おっ♡おっ♡
よおしいいぞお♡
歯茎でち○ぽを
ハミハミするんだっ♡
そのためになせつかく
生え揃った大人の歯を
全部抜いたんだろ♡」

はみはみ

ギョーッ
ほっ

ギョーッ
ほっ

「美柑の無呼吸♡奉仕で
精子昇ってきたっ♡」

「……………」

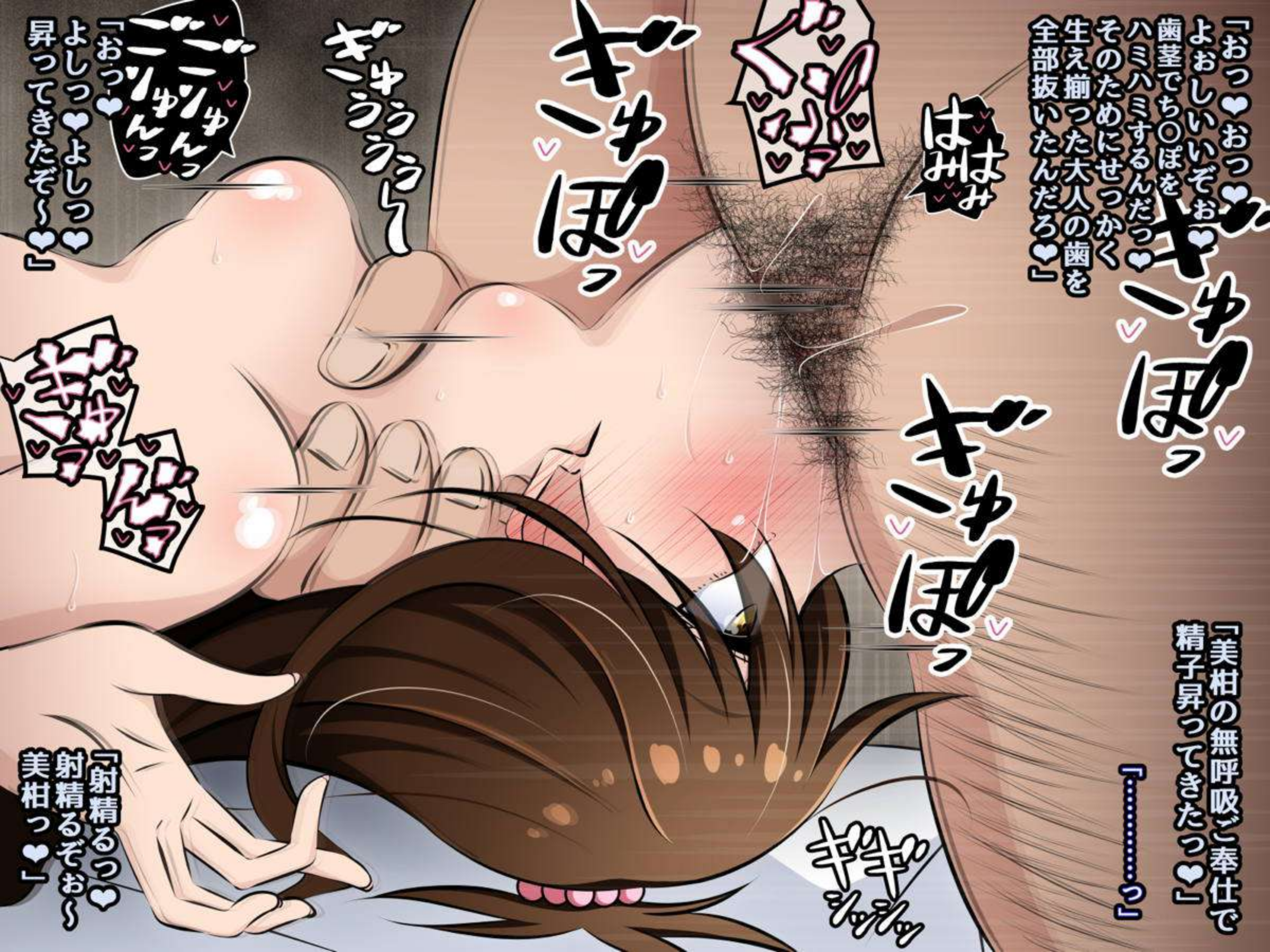
ギョーッ
ほっ

ギョーッ
ほっ

ギョーッ
ほっ

「おっ♡
よしっ♡よしっ♡
昇ってきたぞ♡」

「射精るっ♡
射精るぞお♡
美柑っ♡」





綺麗キレイ

ど

ど

『あつめ』

「ほ♡ほ♡ほ♡♡
射精る射精るう♡
寝起きで二発目♡
まだまだ射精るぞ♡♡」

♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡

トクツトクツ
トクツトクツ

とっ

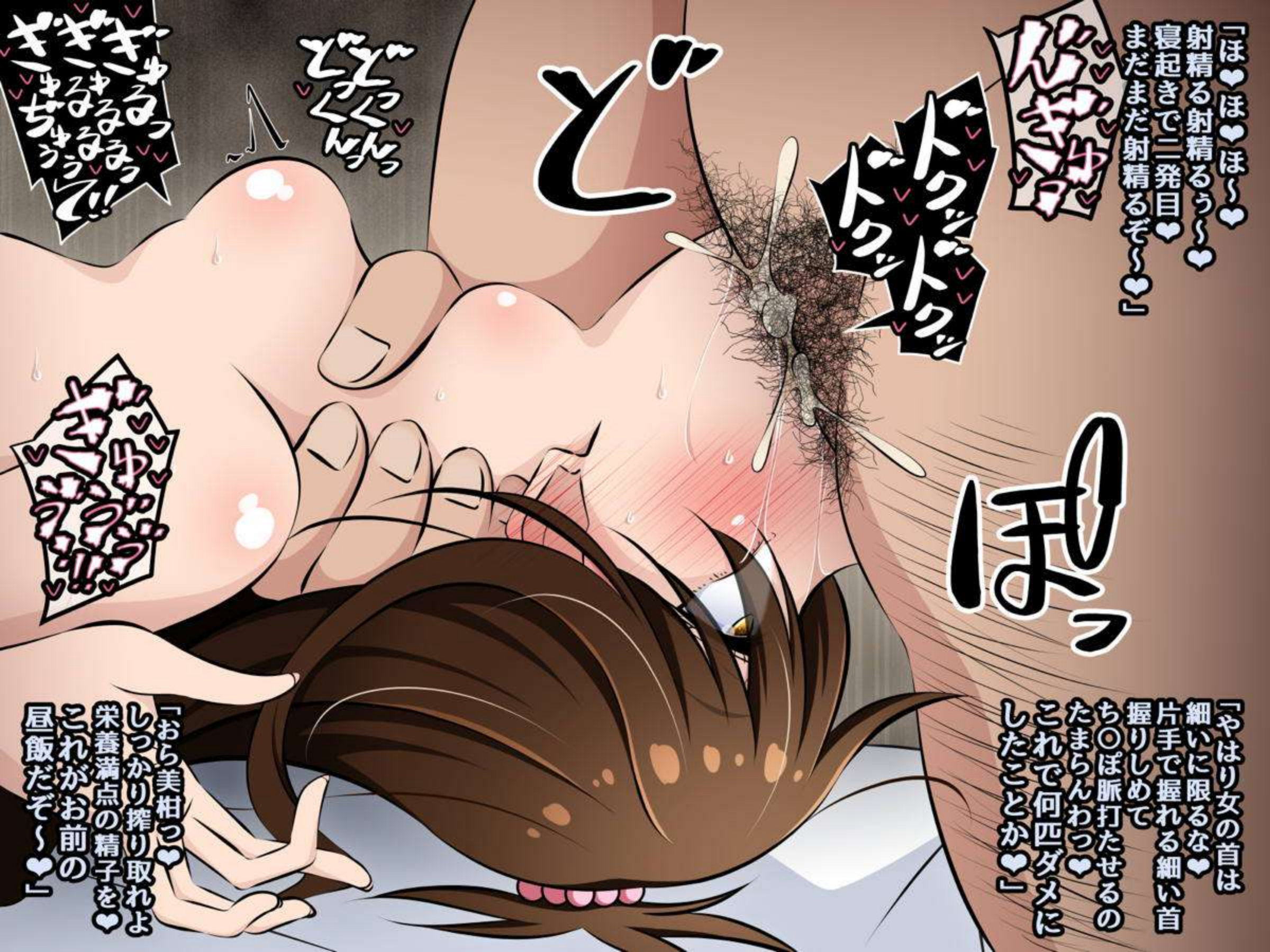
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡♡

ほっ

「やはり女の首は
細いに限るな♡
片手で握れる細い首
握りしめて
ち○ぽ脈打たせるの
たまらんわっ♡
これで何匹ダメに
したとか♡」

「おら美柑っ♡
しっかり搾り取れよ
栄養満点の精子を♡
これがお前の
昼飯だぞ♡♡」



「……ふう〜♡
射精た射精たあ…
……あ〜」

「じゅ、じゅ、じゅ…っ」



トロ…

「うっすい元気が
痙攣しているうちは
大丈夫だよ♡
たぶん(笑)」



ビクッ

ビクッ

「ん？なんだね？
……ああ、心配するな(笑)
いいからもう少し
余韻に浸らせろ♡」

ビクッ

「この若い命を
片手で握ってる
優越感♡
ん、これぞ
上流階級にのみ
許された特権♡」
「〜…っ！！」

おろろろおろろ!!

け

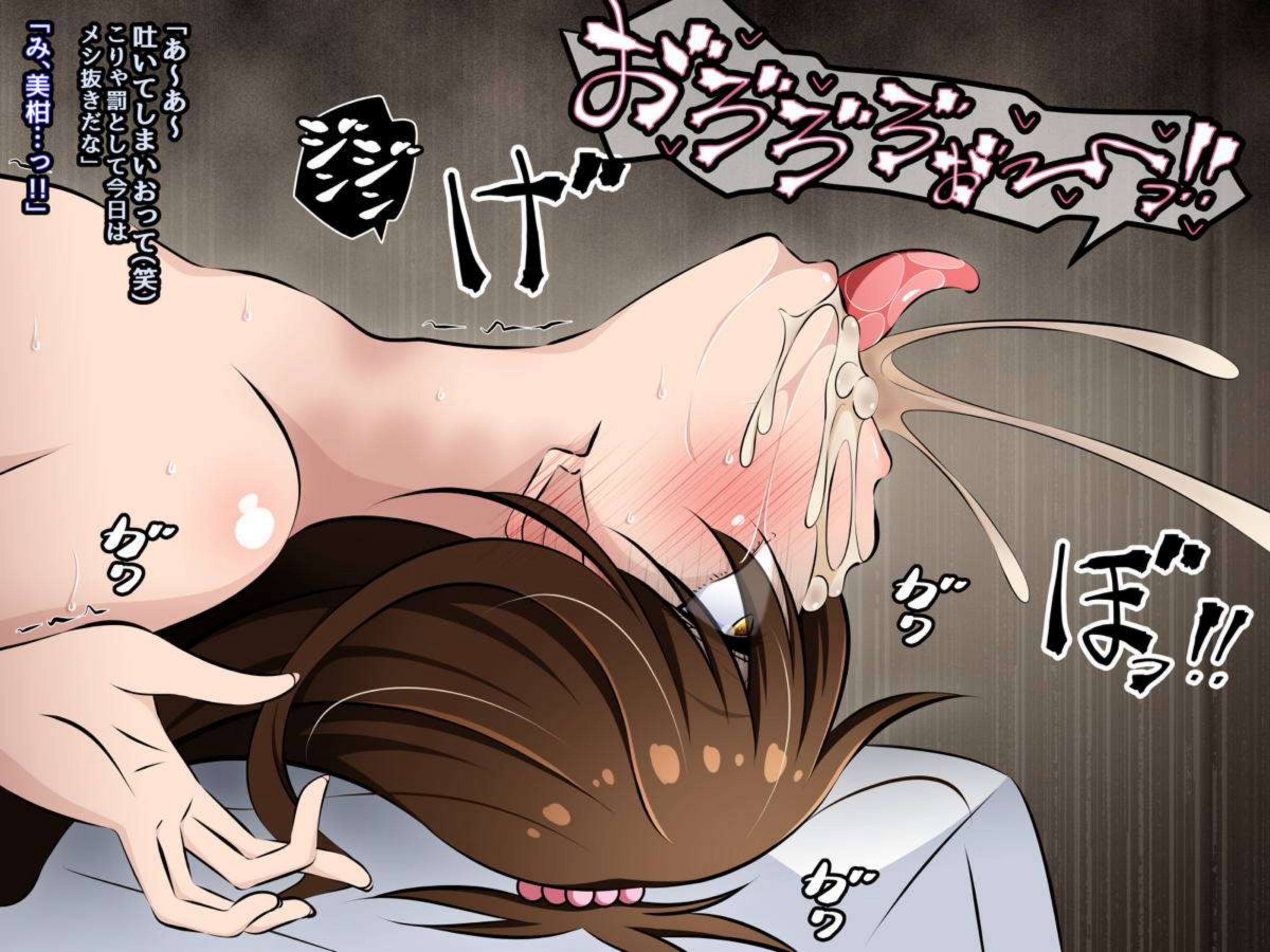
ほ!!

が

が

が

「あゝあゝ
吐いてしまいおつて(笑)
こりや罰として今日は
メシ抜きだな」
「み、美柑…っ!!」



おぼろおぼろおぼろ!!

け

「何を心配しとる(笑)
まさか美柑が苦しんでる
とも思ってるのかね?
美柑はもう何をされても
悦ぶクソマゾ」○なんだ
わかってるだろ?」

「う……」

ぼろ!!

「それよりキミだ。
せっかく許可を
出してやったのに
全然シコってない
じゃないか」

が

が

が

「スポンの中で
パンパンにしてないで
この機会にシコシコして
おかないと損だぞ?」

「う……」



「うむ♡美味しい美味しい♡
儂は庶民の料理にも
理解があるからな♡
以前は美柑が
作ってたんだって?」

「はい……
家事はほとんど
美柑が……」

「そうかそうか
本当によくできた
妹だったんだな♡
オナホになる前は♡」



「しかしさすがに儂が
持ってきた最高級の酒
には合わんな(笑)
ほれ! いい加減
起きんか美柑っ!
腹ごなしに
もう一発やるぞ♡」

「おぽっ!?!♡」

「まったく……
油断するとすぐ
気絶するなお前は♡
しっかり自分の役目を
果たしてるリトくんを
少しは見習え(笑)」

「え…!？」

「ああ、そういうえばこれも
見せたことなかったか？
イイ飲みっぷりだろ？
儂が仕込んだんだ♡」

カハ

お♡♡♡

「良い子のみんなは
真似しちやダメだぞ
美柑みだいに特殊な
改造くんれんを受けてないと
死んでしまうからな」

「……………」

トホホ

キキキ

カハ



「アルコールはなあ、
こうやってケツから
飲ませた方が遥かに
キクんだ♡
その分キケンだがね」

お♡♡♡

カハ

「ほくれ♡気♡気♡
ペース落ちてるぞ(笑)
儂の酒が飲めんのか」

「ほ♡おほおほ
おほ...♡♡♡♡」

ぬほっ

てっつ

「よおし
よく飲んだ♡
ぶほほほっ
赤くなつて
美味そうだな♡♡
ケツ穴から酒一瓶
飲み干して恍惚としてる
」Oは世界中探しても
キミの妹だけだろうな(笑)」

カム

ああっ

かあ

びう

カム

ぐわん

ぐわん

びう

「な...なんのために
こんな...」

「ん...?
決まってるだろ♡
単に美柑の命で遊びたい
のもあるが... (笑)」

「お♡おえっ♡」

「こうするとなあ...
ただでさえ高い体温が
さらに上昇して」



「気持ちいい
からだだよっ♡」

ズ

ズ

お尻が
気持ちいい



「ん〜いらいぞいらいぞ〜♡
アツアツドロドロの
いらいハメ穴だあ〜♡
こりやあ確実に
40℃以上あるなっ♡」

「いっしょにいるうちにも
ぴっちぴちの脳細胞が
死んでいつてるわけだ♡
美柑の頭がすっからかんに
なる日も近いかもな〜♡」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

×キ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「可哀想にな〜学校の
成績も良かったのに♡
でも安心しろ♡
女は結局顔とハメ穴で
人生が決まるんだっ♡」

「そういう意味じゃ
美柑は超優等生だな♡
優秀過ぎて儂のオナホ
以外の道は閉ざされた
わけだが(笑)」



「いいか美柑っ
お前の人生は僕のち○ぽを
気持ちよくするためにだけに
あるんだっ♡♡
腰を絶対下げるなよっ♡」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「大人の体重を
その華奢な身体で
支えられてこそ
優秀なJ○オナホだっ♡」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

お
お
お

お
お
お

「ひと突き毎に
命を消費して貰ってる
ことに感謝してるっ♡♡」

「大人の性暴力で
壊されることに
感謝しながら…
しっかり射精
受け止めるっ!!」

「ほれっ♡ほれっ♡
どうしたリトくん!
助けなくていいのか♡
大事な妹が目の前で
壊されてるぞっ♡」

えんおっ♡

みぢゅっ♡

「ほれっ♡
少し手を伸ばせば届く
距離じゃないかつ♡
頑張れっ♡
ナノマシンの支配
などに負けるなっ♡」

えんおっ♡

「ナノマシンでの
改造や無茶な治療で
こうしている間にも
どんどん寿命が減って
いつてるんだっ♡」

みぢゅっ♡

ゼゼ

「こういうとき
漫画の主人公なら
気合でなんとかする
もんだろ(笑)」

みぢゅっ♡

えんおっ♡

えんおっ♡

「……ぶふふふつ
動けんよなあ〜♡
儂が今君に許可してるのは
オナニーだけだからな♡」

えんおっ♡

「ん〜っどうだね？
わかつたら
変な維持を張らず
シゴつておいた方が
いいんじゃないか？
我慢は身体に毒だぞ(笑)」

「どうせもう一生
寝取られ童貞オナニー
しかできないと
決定してるんだから
もう諦めて楽に
なりたまえ♡」

みぢゅん♡

みぢゅん♡

「簡単だぞ〜
そのズボンの中で
情けなく勃たせている
短小ち○ぽを出して
クチュクチュと
擦るだけだ(笑)」

えんおっ♡

×キ

×キ

みぢゅん♡

「射精するのは
気持ちいいぞ〜♡
こんな風になつ♡」

ゼン

おん

「う……」



「三」

「おっぱい」

「おっぱい」
~~~~~  
「おっぱい」

「おっぱい」

「おっぱい」

「おっぱい」



「あゝ最高♥  
射精は一日何度しても  
気持ちがいい…っ♥  
男はこの瞬間のために  
生きてるようなもん  
だよなあゝ♥」

あゝ最高♥

ピロロロ

カッ

「キミみたいにならばと月も  
オナ禁するなんて  
俺には信じられん(笑)」

「俺はこの何十年  
一日だって欠かした  
ことはないぞ？  
メスガキを使って  
射精するのをな♥」

ピロロロ  
ド

ピロロロ  
フツフツ  
フツフツ

ピロロロ













命令されてしまうと従うしかなく、  
俺は隣の部屋で待機していた…



漏れ聞こえてくる  
美柑の声を聴きながら…





スマホが鳴ったのは  
それから六時間後……



「!」

それは動画ではなく  
ビデオ通話だった……





『いや〜すまんすまん♡  
遅くなつてしまった♡』

りゃあ..

『あれからまた  
盛り上がつてしまつてね♡  
まさか聞き耳を立てて  
オナニーしとらんだろうね？  
勃起はしてると思うが(笑)』

「.....」



「せっかくだから  
ビデオ通話にしたよ♡  
ほら、見てくれ♡」  
今日もキミの妹を  
使い潰してやったぞ♡」

「まああまり無茶すると  
寿命が減るからペースは  
考えんといけないがね(笑)」

うぁあ..



ゼク

ゼク

ゼク



「う……う」

「ま〇〇はデロデロ♡  
内臓はぐちゃぐちゃで  
骨盤も砕けたるな♡  
普通なら死んでるが  
例によつてナノマシンで  
治してるから安心して  
くれたまえ♡  
そのおかげで辛うじて  
生きてるだろ？」  
儂の下で(笑)」

「はは、寝取られマゾの  
リトくんにはイイ  
ズリネタだろ？  
だがそれだけじゃないぞ  
儂はサービス精神が  
旺盛だからな♡」



『ほれ、これだよ』

ゼツ

『歯を抜いたときとくらべて、キミは取り返しのつかないハードプレイが好きみたいだからね♡』

『えっ？それ……？』

ホ

ゼツ

ゼツ

ゼツ

ホ

ちゃっ

『キミの妹に……わっ  
一生消えなら  
落書きを  
してやるっ♡』

『お……な』







『ほい、完成〜っ♡♡』

『しかしリトくん…  
またも妹のピンチを  
救えなかつたな〜？』

おお..

『どうだ、なかなか  
イイ出来だろ？  
これで美柑が  
僕の性玩具だと  
一目瞭然だ♡』

『誇っていいぞ  
僕自らわざわざ  
彫ってやったんだ♡』

『.....♡』

『妹が羽交い絞めに  
されて無理矢理  
タトウー彫られてる  
のに止めないなんて  
ヒドイ兄貴だ(笑)』  
やはりキミは  
独りでシコシコしてる  
のがお似合いだよ♡』

ゼツ

ゼツ

ゼツ

じゅ





「ついでだから  
記念写真も残しておくか♡  
リトくん、  
画面を保存しておいてくれ、  
それくらい左手だけでも  
できるだろ？」  
右手は今忙しいだろうからな(笑)」

「う……う……う……」

あえええ

「ははは、こうすると  
釣った魚みたいだな(笑)」

ポポ

トコ

体長149センチの  
メスガキです♡  
まだまだ  
小ぶりなJ○だけど  
逃がしませうん」

アウ

「せっかく釣り上げた  
カワイイ獲物なので  
きちんと命まるごと  
いただきまうす♡」



「ぶほほほっ♡  
さてさて、リトくんは  
上質なオナネタも  
提供できたところで…  
ダメ押しにもう一つ♡  
今から美柑を  
妊娠させてやろう♡」

『え…っ？』

あえええ

「今さらそう驚く  
こともあるまい？  
ナノマシンを使えば  
容易いことだ♡  
既に美柑は儂の前では  
常時排卵するように  
改造済だからね…  
後は受精と着床を  
促すだけだ♡」

ええ

ポ

ト

「子宮の修理も  
そろそろ終わっただろう♡  
となればもう  
ワンタッチで—」









「ほい、これで受精完了♡  
美柑の妊娠が決定したわけだ♡  
ひひひ、簡単だろ？」

『.....!!』

「もちろん取り消しは  
きかんよ？」  
まあどの道妊娠はさせる  
予定だったから一緒だ♡  
俺はハントしたメスガキには  
必ずガキを産ませるように  
しているからね♡」

『しばらく子宮ぶち抜き  
レイプができなくなる  
のが難点だが…  
そこは我慢だな♡  
新しい命のために(笑)』

おめでとう♡♡♡

おめでとう♡♡♡

ゼッ

おめでとう♡♡♡

おめでとう♡♡♡

ゼッ





「あー、わかってると思うが  
出産は命がけだぞ?」

「儂のポリシーとして  
出産させるときには  
ナノマシンの治療は  
しないことにしてるんだ  
女なら出産くらい  
自力でこなせないとい  
けないからね♡」

「まあ安心しろ♡  
これまでの経験から言っ  
美柑の体格ならまあイケるだろ、  
多分な(笑)」

おははは♡♡♡

せつ♡

せつ♡

せつ♡

おははは♡♡♡

せつ♡





「想像できるか？  
この細っこい身体から  
ガキがひり出てくるんだ♡  
あれは見ものだぞ(笑)」

「はあ…っ♡はあ…っ♡  
はあ…っ♡はあ…っ♡」



「ふうーっ♡  
ふうーっ♡」

「ぶふふ、気に入って  
もらえたようで  
何よりだ(笑)」

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

「それじゃあ僕は  
引き続き美柑で  
楽しませてもらうから  
キミはオナニーに  
励んでくれ(笑)」



♡♡♡  
クチュクチュ  
♡♡♡

「今日はこの映像を使って  
何回でもしていいからなく  
どうせ録画してたんだろ」







「……」  
「……」



「……」  
「……」



「……」  
「……」  
「……」  
「……」



「はあ…う  
は…ああ…う」





「はあ……っ  
は……ああ……っ♡」



その日……俺は  
美柑がタトウーを彫られ、  
妊娠させられる動画を見て  
五回抜いてから  
力尽きるように寝た……

シクシク

単に許可されただけで  
オナニーをしろとは  
命令されていない……  
にも関わらず……  
美柑を助けられない  
無力感を味わいながら……

俺が「ご主人様」に  
逆らうことを諦めた……  
このときが決定的な  
瞬間だった……



「はあ……っ  
は……ああ……っ♡」



その日……俺は  
美柑がタトゥーを彫られ、  
妊娠させられる動画を見て  
五回抜いてから  
力尽きるように寝た……

フワッ

単に許可されただけで  
オナニーをしろとは  
命令されていない……  
にも関わらず……  
美柑を助けられない  
無力感を味わいながら……

俺が「ご主人様」に  
逆らうことを諦めた……  
このときが決定的な  
瞬間だった……



「はあ……っ  
は……ああ……っ♡」



その日……俺は  
美柑がタトゥーを彫られ、  
妊娠させられる動画を見て  
五回抜いてから  
力尽きるように寝た……

フクフク

単に許可されただけで  
オナニーをしろとは  
命令されていない……  
にも関わらず……  
美柑を助けられない  
無力感を味わいながら……

俺が「ご主人様」に  
逆らうことを諦めた……  
このときが決定的な  
瞬間だった……



Chapter. 3 : 公開出産♥大人の歪んだ保健体育♥





十ヶ月後、学校——

ザッ

え？  
あれって……？

うわ、  
なに……!?

うそでしょ？  
あ、あのお腹……!!

ザッ

ザッ

ザッ

ザッ

あれ結〇さん  
だよね……？  
最近休んでた……

ね、ねえこれ  
先生に言った  
ほうが……

え、え？なに？  
どういふこと……??

「……♡」

ほっ♡  
ん♡  
ん♡

ザッ



教室――

「はい、みんな  
静かにして〜」

ぽろ

うわ…  
すご…

ザッ

て

よかつた〜  
私じゃなくて…

ちゃら

「今日は結〇さんが  
久しぶりに登校して  
きてくれました〜。  
結〇さんがクラスを代表して  
ご主人様の孕ませ奴隷に  
していただいていたことは  
みんな知ってるよね？」

ザッ

ぼ

マジで妊娠  
してるじゃん…

ザッ

「今日はご主人様が  
結〇さんを使って  
大人の保健体育を  
教えてくださいます  
みんなしつかり  
勉強するように〜。  
ではご主人様  
お願いします」





「ひひひ♡  
ほれ美柑、みんなに  
説明してあげなさい」

「はい、主人様♡」

でも結〇さん  
なんか幸せそ〜

ちやう

「…みんな、ひさしぶり〜  
ず〜っと学校に来れなくて  
ごめんなさい♡」

私が休んでた間  
何してたかって言うけど…  
見たらわかるよね？  
毎日めっちゃくちやんに  
犯されてたの♡♡

ザッ

ぽ

ザッ

て♡

やべ…  
俺勃って  
きちやった…

ザッ

「遊びで孕まされた」を  
大事に大事に育てて…  
や〜と臨月になったから  
みんなに見せびらかせに  
来たんだ♡」

「どうして？」

すっごくイヤらしい  
身体になったでしょ♡  
大人はこーやって  
J〇をアンバランスな  
体型にしちやうのが  
大好きなんだって♡

みんなの周りにいる  
大人もできないだけで  
みんなそうなんだよ♡

なんか前より  
エロくなつた  
よな…



「よしよし、いいぞ♡  
しかし、美柑…  
少し説明が足りないな？  
これじゃまるで儂が悪い  
みたいじゃないか(笑)」

でも結〇さん  
なんか幸せそ〜

「あ、そうですね(笑)  
みんな、誤解しないでね？  
私は大丈夫だよ、  
ご主人様のために  
人権を完全放棄して  
から♡」

「そうだ、玩具をどう扱おうが  
持ち主の勝手だからな♡  
それに…責任を取るの  
は儂の仕事じゃない」

ザッ

ぼ

ザッ

て♡

ザッ

「はい、もちろんです♡  
私がこうなった責任は…」

やべ…  
俺勃って  
きちやった…

なんか前より  
エロくなつた  
よな…



「よしよし、いいぞ♡  
しかし、美柑…  
少し説明が足りないな？  
これじゃまるで儂が悪い  
みたいじゃないか(笑)」

え？

「あ、そうですね(笑)  
みんな、誤解しないでね？  
私は大丈夫だよ、  
ご主人様のために  
人権を完全放棄して  
から♡」

「そうだ、玩具をどう扱おうが  
持ち主の勝手だからな♡  
それに…責任を取るの  
は儂の仕事じゃない」

ザッ  
ぼ

ザッ

て♡

「はい、もちろんです♡  
私がこうなった責任は…」

あ…あの  
知ってる…

「ぜくんぶ  
そこに立ってる  
私のお兄ちゃん、  
リトにありまっす♡」

「……………」



「当たり前前だよね〜リト?」  
妹が遊びで孕まされてんのに  
泣きながらシココってたんだから…  
責任くらい取ってくれないと!♡」

「あ、ああ…」

ええ  
ひどい

ザッ

て♡

「キミたちくらいの  
年頃がキチンと  
避妊をしないと  
どうなるか…ひひ♡」

「よし、責任の所在を  
明らかにしたところで  
特別授業を始めるか♡」

ちやちや

テーマはずばり  
出産のリスクに  
ついてだ♡  
これから美柑が  
皆を代表して  
出産するから♡」

え?  
マジで今から  
産むの?  
ここで?

ザッ

ぼ

妹がやられて  
たら普通  
助けるだろ…

「んふ♡♡」

「同級生——美柑が  
超ハイリスクな  
命がけの出産を  
するのを実際に見て、  
どれほどキケンか  
しっかり学ぶんだぞ♡」



美柑がナノマシンで  
強制的に妊娠させられて  
から十ヶ月——  
今日は美柑の出産予定日…

しかし『ご主人様』は  
俺たちを病院ではなく  
美柑の学校に連れてきた…

ちやう

ザッ

ぼ

ザッ

て

教師やクラスメイトは  
当然のように洗脳済み。  
どうやら美柑はここで…  
同級生たちの前で  
出産させられるらしい…

でも俺にはどうする  
こともできない…  
美柑の言う通り、  
俺には…





「じゃあまずはい  
陣痛促進剤飲むね♡」

「大人になったら  
期日は絶対だから、  
出産なんて些細なことでも  
予定日から遅れちゃ  
ダメなんだって♡」

「当たり前だよね、  
出産なんて命がけで  
穴からガキひり出せば  
いいだけだもん♡  
それだけのことで  
わざわざ種を仕込んで  
いただいたご主人様を  
待たせられないよ♡」

ザッ

うわ、  
あんなの飲んで  
平気なの？

あーん♡♡♡

促進剤って？  
むりやり  
産ませるって  
こと？

ザッ

えーそんなこと  
していいの？

ザッ

「よしよし、  
美柑はメスの立場を  
よく分かってるな♡  
みんなも見習うんだぞ」







「はっい飲んじゃった♡  
これで数十分後には  
生きるか死ぬかの  
ギャンブル出産決定  
です♡」

「よかったらみんなも  
賭けてみてね♡  
私が生きるか死ぬか♡」

「み、みか…」

「うゝむ、  
それまで暇だな…(笑)  
…よし、では

この空いた時間で  
主人への奉仕  
の仕方を教えてやろう♡  
学校では教わらない  
実践的な保健体育だ♡」

ザッ

ホントに  
飲んじゃった…

えゝ  
美柑ちゃん  
死んじゃうの？

ザッ

てかお兄さんも  
止めればいいのに…

ザッ

「そうだな、  
まずは…」







「口を使った  
奉仕だな♡」

んあ〜♡♡♡

ぬ♡

と♡





「口を使った  
奉仕だな♡」

嘘、あれ…  
歯が…!?

とっ  
ザッ

「なあ美柑♡」  
「そっこだよお〜みんなあ♡  
特に女の「」は覚えといてね？  
誰かの玩具になったら  
即・全抜歯♡  
これ常識だから♡」

んあへっ♡

ぬ

「こらこら、  
騒ぐんじゃない(笑)  
主人を気持ち良くする  
ために歯を抜くなんて  
当たり前だぞ？」

ザッ

入れ歯…??  
な、なんで…

ザッ

え？え？  
そんなことまで  
しなきゃ  
いけないの…？

「じゃ・ない  
とお…」





「おちのぼ様に  
歯が当たったちゃう  
でしょ♡」

「ひひ♡」

でっか…っ

あんなの  
入るの…??

ザッ

「女を支配してくれる  
すっごおしいモノ♡  
お口を使ったご奉仕では  
コレをお口いっぱい  
頬張ってえ♡  
喉奥でシゴくんだよ♡」

べちゃあ♡

ギン

ザッ

俺たちの腕  
くらいあるじゃん  
あれ…

ぼろん♡

ザッ

「見たことない」も  
多いかな？  
コレが大人の  
勃起ちのぼだよ♡」

「あ、ちなみに…  
ほら、リトっち来てー」  
「あ、ああ…」



「こっちはリトの  
負け犬ち○ぽ  
ご主人様とは  
比べ物にならない  
ほど粗末でしょ(笑)  
小っちゃくてカワイイけど  
男として終わってるって  
いうから」

ゼン

ちっさ(笑)

ザッ

「女のコはご主人様を  
選ぶときは絶対  
こんな短小ち○ぽを  
選ばないように  
気をつけてね  
男のコはこうならない  
ように頑張って」

べちゃあ♡

ギン

「これじゃあ  
寝取られても  
仕方ないって  
いうから  
価値ないよね(笑)」

ぼろん♡

ザッ  
うわー  
かわいそー

ザッ

さすがに  
あれは  
ないわー

「もしこんな短小に  
なっちゃったら  
そのときは存在が  
迷惑なので  
さっさと死ぬか  
一生童貞でいて  
くださーい(笑)」







「さて…それじゃあ  
キミ…」

「え…私ですか…？」

「そうキミだ♡  
キミ、こっちに来て  
體のケツ穴を  
舐めなさい♡」

「ん…っ」

え？  
私たちも  
何かする  
の？

「ん♡ん♡ん♡  
ん♡ん♡ん♡」

「ん♡ん♡ん♡  
ん♡ん♡ん♡」

「何を驚いとる  
今日の保健体育は  
実習だぞ？」

「アナル舐めは  
奉仕の基本だ♡  
ほれ、早くしなさい」

「ん…ん…」

「ん…っ」

「ん…っ」

くそ…  
結○さん…  
オレも大人  
だったら…

俺男で  
よかったさ

「ん♡ん♡ん♡  
ん♡ん♡ん♡  
ん♡ん♡ん♡  
ん♡ん♡ん♡」











「んほっ♡♡」

あまのこ♡♡♡♡♡

ズチユウウウッ

うわっ  
射精してる  
すごい量…っ

ほっ

俺も大人に  
なったら…

「やはりお前らは  
どこを取っても  
大人に使われる  
ためにできて  
いるなあ♡♡」

べろろ♡  
びゅる♡

「おっふうう〜  
〜たまるん♡  
J〇サンドイッチで  
漏らすような射精っ♡

持ちやすい頭♡  
熱いくらいの口内に  
柔らかかな舌…っ♡」

ど

動画撮るときや  
よかつたな〜  
誰か撮ってない？

ちよつと男子  
サイテ〜

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡



「ん〜これだこれ♡  
口腔内を楽しんだあとは  
やはり喉ま〇こだ♡」

うわ  
喉があんなに  
変形してる…

けほっ♡

よく平気  
だよな〜

かほっ!!

げほっ♡

げほっ♡

かほっ!!

げほっ♡

けほっ♡

「口だけでは狭すぎて  
半分も入ってなかった  
ち〇ぽも…ほれ  
根元までこの通り♡」

私絶対  
ムリ…

かほっ!!

「メスガキは  
窒息させて  
なんぼって  
ことだな♡」

ごっ♡



「おら死ねっ♡死ねっ♡  
喉を使ってやってる  
おち〇ぽ様に感謝  
しながら窒息しろっ♡

お前  
メスガキの代わり  
なんかいくらでも  
いるんだっ♡♡♡

けほっ♡

がほっ!!

ぐわっ♡

マジで  
殺す気...?

がほっ!!

もう何分も  
息してない  
よな...

お前  
「メスガキは  
命を性欲処理に  
役立ててやってる  
ことにしつかり  
感謝してっ!!」

ぐわっ♡

ぐわっ♡

ゴッ  
ッ!!

「最近のガキには  
大人に対する感謝が  
まったく足りんっ♡」

けほっ♡

大人って  
こわ...

がほっ!!

「ち〇ぽに  
残りの人生  
全部  
捧げろっ!!」



ふふふふ  
ふふふふ  
ふふふふ

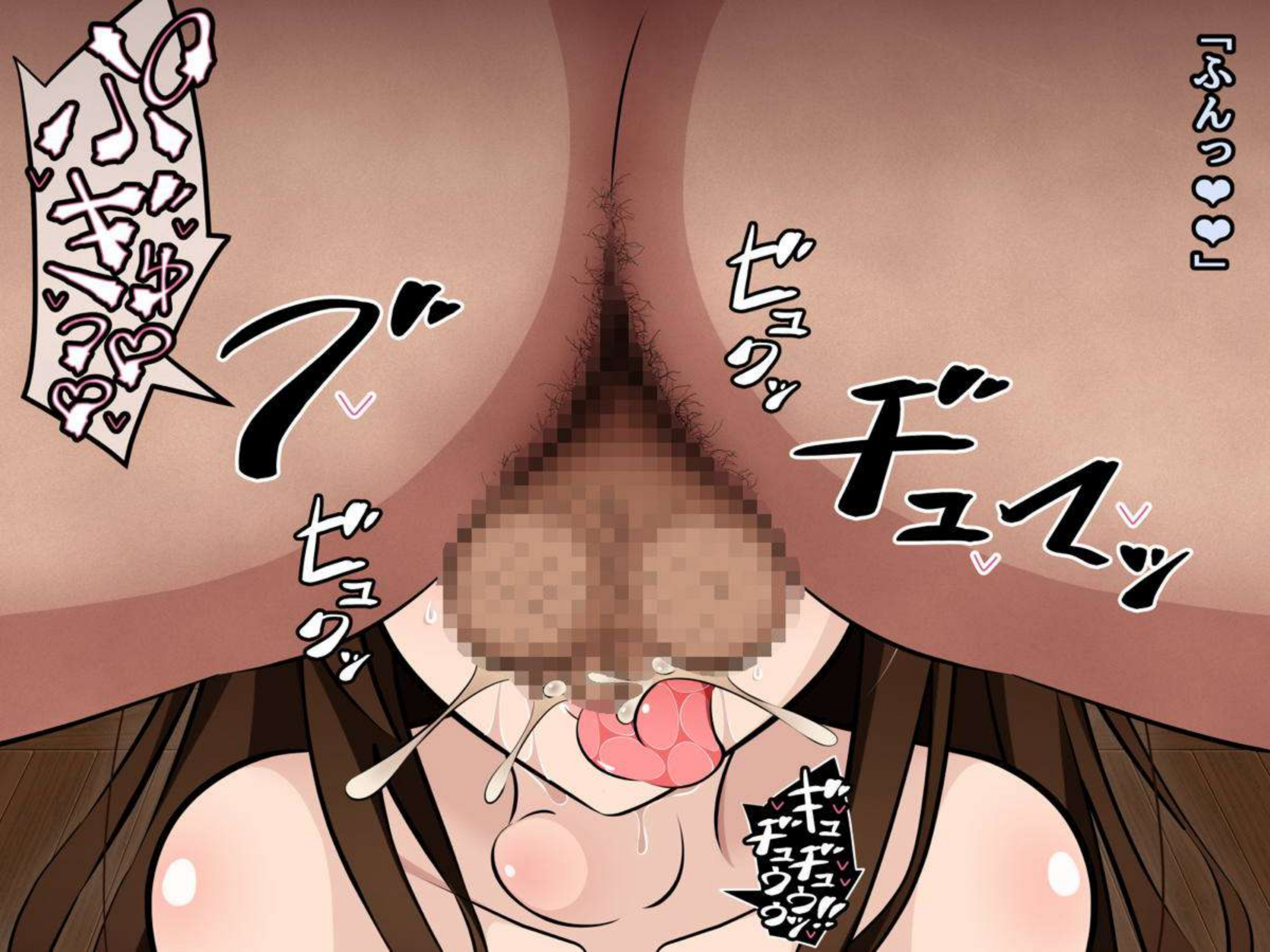
ふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ  
ふふふ  
ふふふ





「ふう〜っ♡  
ふう〜っ♡  
あ〜たまらん♡  
やはり美柑の喉は  
ストレス発散に  
ちようどいいな♡」

やべ〜すげえ…  
今度妹でやって  
みようかな…

「女子諸君は尚更だ♡  
ほれ、美柑を見たまえ、  
これだけされても動じず  
酸素の代わりに  
精液を吸ってるだろ♡」



ゼク



ゼク  
クッ

デュムッ



やっぱマジで  
殺す気だった  
んだ…

「男子諸君は  
勉強になったろ？」

これが女の喉の  
本来の使い方だ♡  
殺すつもりでやる  
のがコツだな(笑)」

ア

ゼク  
クッ

ゼク

え〜  
やだ〜

「美柑はもう自分が  
消耗品だと自覚  
してるんだ♡  
キミたちも  
しつかり  
見習うように♡」





おはよう

ほっ

うわ、吐いた！

「もっとも  
美柑もザーゲロ癖  
だけは治らんがな♡」

きたね〜(笑)

ちよつと  
やめなよ〜

「これはこれで  
面白いが(笑)  
本来は全て  
胃に収めるのが  
マナーだぞ♡」

げろりい









「よしよしそうだな  
次からは言われる  
前にするんだぞ♡」

サチとマミ  
かわいそ  
完全に  
巻き込まれ  
てんじゃん

「よし、  
それじゃあ  
三人とも  
尻を出して  
並びなさい♡」

でも何か...  
けっこう  
ノリノリ  
じゃない？





「ほっほっほっ♡♡」

「いいのお♡♡♡」

食べごろ

小ぶりま〇こが

三つ…♡♡♡」

「こうして並べると  
美柑のま〇こが  
いかに使い込まれてるか  
わかるなりトくん♡♡」

「この十ヶ月毎日  
使ってたからなあ♡♡♡  
」〇とは思えんま〇こだろ(笑)」

はあ♡♡

はあ♡♡

はあ♡♡

はあ♡♡

「まあで  
どれから食って  
やるか…♡♡♡」

ての♡♡

ろん♡♡

し♡♡

まの♡♡

「良い慣れた  
美柑のま〇こか  
それとも」





アッ♡♡♡

アッ♡♡♡  
アッ♡♡♡  
アッ♡♡♡

「アッ♡♡♡」

アッ♡

アッ♡

アッ♡♡♡  
アッ♡♡♡  
アッ♡♡♡



「おっ♡ほほほ♡  
これはなかなか…っ♡」

「悪くない穴だぞ！  
初物だけあって  
締りがイイっ♡♡」

♡♡♡  
♡♡♡

「いいな♡  
すっごい声(笑)」

「名前は何だった？  
まあ何でもいいが(笑)  
見た目通り活発な穴だなっ♡  
生意気に抵抗感が強くて…っ!!」

「しかし  
無駄な抵抗だぞっ♡♡」

「そんな拙い抵抗で  
大人ち○ぽに勝てると  
思うなっ♡♡  
観念して内臓全部  
ち○ぽ奉仕に使えっ♡」

「きちんと自分から  
お迎え腰して  
ち○ぽを根元まで  
受け入れるんだ！

ほれどうしたっ  
この程度でへバっつてちや  
立派なオナホには  
なれんぞっ♡♡」

ゴボュッ

ゴボュッ

ゴボュッ

♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

グチャッ

グチャッ







♡♡♡♡♡

「うっむっ♡  
こっちの穴も  
悪くないっ♡♡  
このクラスは良質な穴が  
多いな♡感心感心♡」

♡♡♡♡♡

「よかったね〜マミ〜  
…あれ？聞こえてない？(笑)」

「ち○ぽを優しく  
包み込むような  
柔らかい肉だ…っ♡」  
ゼク

「まあそんなことは関係なく  
ち○ぽで突き崩すがなっ♡♡」

ゼク

ぐぢゃっ

メキ

ぐぢゃっ

ぐぢゃっ

メキ

「ひっひっひっ♡

熟れる前に食うのが

メスガキお前らの食い方  
だからなあ♡

ほれ舌を引っ込めんと  
危ないぞ？

お前らにはまだ歯が  
あるんだから(笑)」

「死ぬならち○ぽ  
で死になさい♡」



♡♡♡♡♡

「そっぴいっ♡」

♡♡♡♡♡

「やはりフィニッシュは慣れ親しんだま〇こが一番だっ♡♡  
なあ美柑？」

「はっ♡  
ありがとっ♡おちんちんも  
ご主人様っ♡♡」

がり

がり

ゼッ

ゼッ

「ひひ、さすがに  
お前は慣れたものか♡  
しかしわかつてるな？」

「もちろんです♡  
私が平気でいられる  
のは全てご主人様の  
優しさ...」

「ご主人様の本気  
ピストンの前では  
私もお腹のこも  
ひとたまりも  
ないとごろを」

「加減していただいで  
いるとちゃんと理解  
していきますっ♡♡」





「そうだー!」

おっ

「お前らなど  
本気を出せば簡単に  
壊せるんだからな…っ♡」

「命がまだあることに  
きちんと感謝しなさい♡  
三人ともだぞ(笑)」

「はいっ♡  
ご主人様っ♡♡」

はっ

がり

がり

ゼッ

のっ

「ポテ腹ま○んじで  
しっかり  
受け止めろ…っ♡」

「よし、射精すぞお  
美柑…っ♡♡」

ブヂュ

ゼッ

ゼッ

ゼッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ









「う……っ♡」

「おっ  
キミも射精したか  
リトくん(笑)」

ちっさいちっさい  
一生懸命擦って  
情けなく(笑)

うわ  
シコってたのかよ  
大人しいと思ったら(笑)

妹があんな目に  
あつてるのに…  
マジ最低

「まあそう言うんじゃない。  
リトくんだって辛いんだ…  
なにせ今日は久しぶりの  
オナニー許可だからな(笑)  
どれくらいだった?  
三週間くらいか?」  
「に……二ヶ月です……」

「はは、それはまた  
随分溜め込んだな♡  
つい忘れていたよ(笑)」

てか普段は  
オナニーもさせて  
もらえないんだ(笑)

セム

ムムム

「しかしそう呆けても  
いられんぞ♡  
美柑の陣痛も始まった  
ようだし…」

いよいよ出産だ♡

「んっ♡おっ♡」

「……!!」

「キミにも少しだけ  
手伝ってもらおうぞ  
リトくん♡」





「ほれ美柑っ♡  
最後の仕上げだっ♡」

「らっ♡るん♡」

「儂のお迎え棒は  
優しくないぞ♡  
大人ち○ぽで子宮口  
ガン突きしてやるから  
さっさと破水  
しなさい♡」

ド♡チュッ

ト♡チュッ

ド♡チュッ

手伝うって  
アレかよ(笑)

てかアレ  
タトウー?  
今気づいたけど...

ザーン

「らっ♡るん♡  
らっ♡るん♡」

「リトくんはそのまま  
美柑を支えててくれ♡  
美柑の出産を特等席で  
見られるんだ♡  
キミも嬉しいだろ♡  
ち○ぽおっ勃たせて...  
ちよつとの間オナニーは  
我慢してくれよ(笑)」

「ははっ.....」

また勃起  
してるし...

ザン

ザン

ザン

ドキッ





「ふう〜っ♡  
こんなもんか♡  
あんまりやり過ぎると  
中身がダメになつて  
しまうからな♡」

「お♡お♡…っ♡」

ズ♡

ゼム

ムン♡

ゼ♡  
ゼ♡  
ゼ♡

ゾル

ゾル

ゾル

「さて…そろそろだな♡  
皆にも見えやすいよう  
美柑には片足ピン立ち  
させたこの姿勢のまま  
産んでもらうぞ♡  
出産にはまったく  
適さない姿勢だが…  
まあ大丈夫だろ(笑)」

「……………」

「お♡お♡お♡お♡」



ふわっ  
おっ  
ふわっ  
おっ  
ふわっ  
おっ

うわっ  
びびった...  
なにあれ?  
羊水?

「よおろし、  
破水したな♡  
いよいよだぞ♡  
覚悟はいいか?  
三人とも」  
「み、美柑……っ」

ん  
ん

ハニヤマン

せしゃ

せしゃ

せしゃ

美柑ちゃんって  
足長いよね

いやそんなこと  
言ってる場合じゃ  
ないだろ(笑)





ふわっ  
びびった...  
なにあれ?  
羊水?

うわっ  
びびった...  
なにあれ?  
羊水?

「よおろし、

破水したな♡

いよいよだぞ♡

覚悟はいいか?

二人とも」

「み、美柑……っ」

ブル

ブル

んん

ブル

ブル

ブル

ハニヤマン

せしゃ

せしゃ

せしゃ

美柑ちゃんって  
足長いよね

「母子ともに無事な確率は…  
まあ五分五分といった  
ところか♡  
しつかり目に焼きつけて  
置くんぞ♡  
もしかしたらこれが  
美柑の最期の姿になる  
かもしれんからな(笑)」

「はっはっはっ♡  
はっはっはっ♡」

「美柑……っ美柑……っ」

いやそんなこと  
言ってる場合じゃ  
ないだろ(笑)





「あーん」

あーん

うわーん

あーん

うわーん

うわーん

うわーん





















「ほれ♡」

おし

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぬるぬる

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぬるぬる

あー



「ぶほほほほっ♡  
見ろ見ろ！  
ついに生まれ  
たぞっ♡」

うわあ…ホントに  
産んじやったよ

「み、美柑……？  
おい、美柑……っ」  
「さて…ひひ♡  
それじゃあ  
お待ちかねの  
母体のほうは  
というと…？」

「病院で産んでたら  
帝王切開必須の  
J〇ま〇こから  
強制自然分娩っ♡  
これがキミたち  
メスガキがガキを  
産むときの正しい  
手順だからなら  
参考にしなさい」

ゼクッ

「産まれたガキは  
…おお、女か♡  
おっおっ元気に  
わめきおっ♡」

出産ってすげえ  
迫力だな…

美柑ちゃん  
大丈夫かな？

おっ♡

おおききっ♡

ゼクッ

「み」

ゼクッ

ゼクッ

ほか

ほか





おん~~~~♡♡♡

よかった〜

「なあリトくん  
だから大丈夫だって  
言っただろ？  
出産は命がけ〜とか  
言いつつ女の身体は  
なんだかんだ産める  
ようにできてるんだ♡」

兄貴過呼吸みたく  
なってるじゃん(笑)

「は……っ  
は……っ」

ほか

「お！  
こっちも  
息はある  
みたいだな♡  
潰れたカエル  
みたいになつとる  
が辛うじて(笑)」

「は……あ……っ」  
ゼクッ

「なにになに〜  
ナノマシンからの  
情報によると……  
骨折が数か所に  
内臓の損傷……  
まあこの程度なら  
美柑にとってほ  
ぼは無傷だな(笑)  
母子ともに健康っ♡」

なんか……  
幸せそう

どろおろ

おおざいっ  
おざいっ

「見るこの顔♡  
これが死にかけながら  
股からガキひり出して  
連続アクメキメてた  
妹の顔だぞ♡」





「ひひ♡  
さて…そろそろ  
直してやるか♡  
あんまり放っておくと  
本当に死んでしまうからな♡」

てかお兄さん  
ひどくない？

「よし♡  
しかし覚悟はしておけよ  
ノスガキ  
性玩具は壊されるのが仕事  
みたいなものだからな♡  
そうだな、経験からいって  
この修復ペースだと…  
あと十年もてば  
いいほうだと思っ  
ておきなさい♡」

「……!!!」

結局アイツ泣いて  
シコつてただけ  
じゃん(笑)ほか  
ホント情けな!

「ああリトくん、  
ナノマシンで  
急速治療させるから  
また美柑の寿命が  
減るが構わんね？」

「……っ」

ゼクッ

「それしかないよなあ♡  
今死ぬよりマシだろ？  
ほれ、美柑を直してやる  
優しい主人にお礼を  
言いなさい」

おじやっ  
おじやっ  
おじやっ

「は…はい…  
美柑を直してください…  
ありがとうございます…」

ホントにお礼  
言ってるし…  
マジ最悪

ゼクッ

「消耗品はいつか  
なくなるからな♡  
使い終わるときが  
来ても今日のように  
取り乱しては  
いけないぞ(笑)」

「……!!!」



「よっ♡  
さて…このクラスに  
保健委員はいるかな？」

(胎盤↓)



すぽん

デュルッ

おっ!  
おっ!  
おっ!

え…  
は、はい…

「ああキミ。じゃあこれを  
保健室に持って行って  
世話をしといてくれ。  
こっちも放っておくと  
死んでしまうからな(笑)」

なあに、適当でいいぞ。  
へその緒を切ったり  
身体を拭いたり…  
ググれば出てくるだろ」

わ…わかり  
ました…

できるかな…??

「すまんが頼むよ。  
本来の世話係は  
今だけはオナニーで  
忙しいからな♡  
そうだろ、リトくん」

「えっ……あ……」

まだシコラ  
されるのか  
よ(笑)  
カワイソ



セッ

「まさか今日は  
産んだら終わると  
思ってたのか?  
甘い甘い♡  
修理した玩具は  
すぐに使うに  
決まってるだろ♡」

もしかして  
美柑ちゃん  
休みなし?



「ふんっ!!♡ふんっ!!♡  
ふんっ!!♡ふんっ!!♡」



「.....」



「うひひひひひひっ♡♡♡  
これだこれっ♡♡♡」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「出産を経てさらに  
よくなつた♡♡  
経産婦J〇の  
柔らかい体内を  
無茶苦茶にかき回す  
この感触うっ♡♡♡」

ニ

ぐりゅっ  
ぐりゅっ

ぐんぐん  
ぢゃっ

ぐんぐん  
ぢゃっ

ナキ

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

わんわん  
わんわん

ナキ

ぐんぐん  
ぢゃっ

今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

ぢゃっ  
ぢゃっ

くちゅ  
くちゅ

また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「直ったばかりの  
メスガキま〇こを  
ち〇ぽで容赦なく  
ぶち潰すっ♡♡♡  
この快感は何物にも  
変え難いなあっ♡♡」

「一般庶民には  
決して味わえない  
禁断の果実  
美味過ぎるっ♡♡」



「ほれリトくん  
シコってるから  
今日を逃すとまた  
次はいっになるか  
わからんぞ(笑)」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「儂も美柑の子宮を  
ぶち抜いて内臓を  
かき回してやるのは  
久しぶりだから  
なあ〜♡  
つい力が入って  
しまふよっ♡♡」

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「修理したばかりで  
悪いがこれはまた  
寿命を減らして  
修理コース決定  
だなあ…♡♡」

「せっかく一命を  
取り留めた妹が  
またすぐに壊される  
なんてキミにとって  
最高のズリネタだろ♡」  
「はあ…っ  
はあ…っ」

くちゅ  
くちゅ





「おら死ねっ♡♡  
このメスガキがっ  
ち○ぽで内臓抉られて  
悦びやがってっ♡♡」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「このマゾガキがっ♡♡  
全身でち○ぽ受け入れ  
やがってっ♡♡♡  
おら破れるっ♡  
死ねっ♡  
破れるっ♡♡♡」

「ふうーっ!!!  
射精すぞっ♡♡  
美柑っ♡♡」

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「大人の本気射精で  
美柑の子宮ぶち  
破つてやるっ♡♡」

「生意気に出産で  
生き残りやがって  
そんなにち○ぽで  
死にたいかっ♡♡」  
「う…っ  
ふう…っふう…っ」

くちゅ  
くちゅ

ぢゃっ♡  
ぢゃっ♡

ぢゃっ♡  
ぢゃっ♡

ぢゃっ♡  
ぢゃっ♡

ぢゃっ♡  
ぢゃっ♡

おわっ♡  
おわっ♡  
おわっ♡

ぐりゅっ  
ぐりゅっ

メキ

メキ

メキ





「お...」

「アッ」

「アッ」

「アッ」

「アッ」

「アッ」

「アッ」



「ふう〜っ♡  
ふう〜っ♡♡  
やっつてやっつたあ〜  
〜♡♡♡♡♡」

うわあ  
スゴイ量：  
今日4回目  
でしょ？

ズルズル！！  
ズルズル！！  
ズルズル！！

ガッ  
ズルズル

「どれだけ年老いても  
これだけは  
やめられん♡♡  
ひひひっ♡  
ほれ見ろリトくんっ♡  
また美柑をち○ぽで  
駆除してやっつたぞ♡」

てか  
おへそから  
噴き出して…

え…  
それって…？

ガッ

ガッ

ガッ

「命がけの出産終えた  
J○をまたち○ぽで  
ぶち壊してやっつたっ♡

あ、兄貴も  
射精してる(笑)

ホントだ  
気づかな  
かった(笑)

ひ…ひひひひ  
気持ちい〜っ♡♡  
圧倒的優位の立場から  
抵抗できないメスガキの  
命摘み取るの最高っ♡

ゼムニ

「キミもイイ  
オナニーが  
できたかね(笑)」

「…ふう…ふう…」



「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美柑ちゃん  
せっかく直して  
もらったのに  
また…

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美柑は再修理して  
やろう♡」

「あ…  
ありがとう  
ごちいます…」

大人の性玩具  
ってタイヘン  
なんだな

「ひひ♡  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？」  
少しでも美柑と一緒に  
長生きしたかったらな」

ブルブル  
ブルブル  
ブルブル

ガク  
ブルブル

ガク

は、はい……  
わ…私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました…  
み…美柑の命を  
消費してくださり…  
あ…ありがとうございます  
ございました…」

またそんな  
こと言つて…  
最悪…

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからもよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

せ  
ム

「……」



「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美柑ちゃん  
せっかく直して  
もらったのに  
また……

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美柑は再修理して  
やろう♡」

「あ……  
ありがとう  
ございます……」

大人の性玩具  
つてタイヘン  
なんだな

「ひひ♡  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？  
少しでも美柑と一緒に  
長生きしたかったらな」

ブルブル  
ブルブル  
ブルブル

ガク  
ブルブル

ガク

「はいはい……  
わ……私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました……  
み……美柑の命を  
消費してくださり……  
あ……ありがとうございます……  
ございました……」

またそんな  
こと言つて……  
最悪……

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからもよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

ブルブル

「……」



「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美相ちゃん  
せつかく直して  
もらったのに  
また……

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美相は再修理して  
やろう♡」

「あ……  
ありがとうございます  
ございます……」

大人の性玩具  
ってタイヘン  
なんだな

「ひひ♡  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？  
少しでも美相と一緒に  
長生きしたかったらな」

「は、はい……  
わ……私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました……  
み……美相の命を  
消費してくださり……  
あ……ありがとうございます  
ございました……」

またそんな  
こと言つて……  
最悪……

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

「……」

「……」







「おっと、忘れていた！  
この状況で修理すれば  
当然美柑は受精するが  
構わないね？」

「え……っ」

「ひひ♡」

これでまた美柑は  
命がけの出産遊び  
決定というわけだ♡  
まあ遅かれ早かれ  
覚悟はしてただろ(笑)「



「もちろん美柑の  
身体に負担は  
かかるが…  
まあ平気だろ(笑)  
どうせ消耗品だ♡」

「しかし今度は  
十ヶ月も待つのは  
面倒だから…  
その間子宮ぶち抜き  
もできないし

ナノマシンで成長を  
早めてみるか♡」

「！」

「これで出産遊びの  
ペースも上がって  
一石二鳥♡  
だろ、リトくん？」

「ひひひ♡」

まあとりあえず  
成長速度三倍くらい  
から……♡  
また三ヶ月後が  
楽しみだなあ♡  
リトくん♡」

「……」



Epilogue : 人身売買オークション♥



五年後

某所某ホテル…  
秘密のオークション会場—

『さていよいよまで  
大盛況を賜っております  
第36回メスガキオークション—  
次がいよいよ最後の出品です—』

ダ  
バ

ダ  
バ

『出品者は主催者の一人であり  
第1回から参加されている  
最古参メンバーの〇〇さん—』

『37回  
目まで出品物—』

ダ  
バ



「あー  
結の美柑ちゃんですー」

♡♡  
♡♡  
♡♡

おん

おん

おおっ!





「美柑ちゃんを知らない方は  
ムムムはいないでしょう」

「この五年、裏サイトで  
爆発的な人気を誇る  
美柑ちゃんは  
彩南町で捕獲され  
ナノマシンによる  
洗脳・改造によって  
大人のために  
人生を捧げました」



「出品者のOOKUさんによる...  
身体への負担を考慮しない  
強引な改造を見境なく施し、  
出産回数はなんと18回！」

「ガッお」

「今ならもうっから  
寝取られマツになった  
お兄ちゃんのリトくんも  
セットです(笑)」

「またメスガキ体型で  
主人を楽しませるため、  
J0のまま成長を止めて  
いるとのことですよ。  
そんな誰かが羨む  
美少女玩具がこの度  
ついに出品！」

「ガッお」

「ガッお」

「ゼン」

「ゼン」





「おお、これは…♡」

ザーお

ゼン

ゼン

「……」

「ほー、ついにあの美柑ちゃんを出品ですか！ 毎度太っ腹ですなあ○○さん」

「いやいや、古い玩具は手放さないと家にどんどん溜まっていつてしまうのでね♡」

「○○さんの品物はいつも素晴らしい！」

ザーお

「はは、それはよかった。ぜひ美柑もどうかかな？ この五年、儂自ら仕込みに仕込んだ最上級のエロ」○○だぞ♡」

「それではデモンストレーションのほうを…○○さん、お願いしまわ」

「この前のサチちゃんどママちゃん私が購入させていたんだんですがね♡今でも使わせてもらってますよ」

わ

「ああ、わかった。ではまずは――」





二人とも...イける♡

あへん♡

「...」

ゼクッ

淫

ゴキョッ

ゼクッ

ゼクッ



「このように、兄妹とも洗脳処理は完璧だ♡」

「う……♡  
ふう……♡」

「リトくんはこれが半年ぶりの射精かな(笑) ナノマシン制御で身体は若いまま、日々作られる精子を全て溜め込ませ、たまに無駄撃ちさせて楽しんでる♡  
もちろん童貞だ♡」

「えへへえ、  
ごめんね〜リト♡」

「美柑のほうは……  
まあ見ての通り♡  
これまでさんさん  
動画にも上げてきたな」

ほか

しゃっっっ

ほか

おム

おム

「大好きだったお兄ちゃんを今は電柱扱いだ♡」

「主人に使われて壊されることが生きがいのマゾペットだな♡」





「いや〜素晴らししい♡  
いつもながら完璧な  
洗脳処理だ!」

「ええ、実に…」

「ナノマシン洗脳装置は  
私たち小金持ちには  
手が出ませんからな  
羨ましい限りですよ」

「それだけじゃありませんよ?

「あの弛んで歪んだ腹♡

「何度も出産させないと

「ああはならない!♡

「五年でJ〇をここまで

「使い潰すとは

「さすが〇〇さんだ!♡」

ほか

「ひっひひ♡  
気に入ってもらえたかな」

ム

シャッパッ

ほか

ム

「よかつたなあ、お前たち  
新しいご主人様が  
見つかりそうだよ♡」

「は〜…」

「はあい♡  
ご主人様♡」

「お兄ちゃんのリトくんも  
イイ味だしてますよ♡  
オブジェとしても悪くないし、  
童貞のまま去勢するのも  
面白そうだ(笑)」

「よおし、では  
次のデモに  
移ろうか♡」



「それじゃあ美柑、みなさんにご紹介しなさい」

「はい♡ みなさん、この度は美柑のオークションにご参加いただきありがとうございます♡」

ゴゴゴ

「今から美柑の正しい使い方を紹介します♡」

「お、始めましたよ」

「相変わらずの巨根ですな………というより、以前より更に巨大になっているような……(笑)」

ブル

ブル

ブル





「これから私はあ〜♡  
この規格外ち○ぽに全体重をかけて〜♡  
串刺しになつて死にまあす♡

私はどんなに中身が  
ぐちゃぐちゃになつても  
寿命を消費して  
ナノマシンで治りますのじゃあ〜♡♡

ゾクゾク

「皆やまいや安心♡♡で  
美柑が壊れる様を  
お楽しみくださいあ♡♡」

「ははあ、なるほど…  
これが正しい使い方という  
わけですか♡♡」

ゾム

ゾム

「愉しみですなあ♡  
美柑ちゃん壊れるのを  
生で見れるとは♡♡」

「ちなみにあのち○ぽ  
ナノマシン技術を応用して  
より巨大化させたらしい  
ですよ(笑)」

「はは、メスガキ処刑用の  
ち○ぽというわけですか(笑)」



「わわわ♥♥  
よづらぞろ〜美柑♥」

「はあ〜♡  
そわごまあ〜♡」

「はあ〜♡」

「あ〜♡  
見てっ♡(笑)」

「.....」

「わ〜♡.....」





しゃんしゃん

あーあーあーあー

ぬりぬりぬりぬり

あっ!

ぽろぽろ

ハッ

ぷんぷん

ぐんぐん





「ほれ動けっ♡動けっ♡死んどうる場合じゃないぞっ♡お前の命より儂のちのほ！いつも言っつとるだろっ♡」

「うおお〜！まさか本当にアレを身体に収めるとは♡さすが美柑ちゃんだ♡」

「さあ…(笑)見たところ肺のあたりまでは届いてそうですが」  
「美柑ちゃんの残機1つ減といったところですかな♡」

「いやいや、1つどころじゃ動かないでしょう♡死んでますよあれは(笑)」





「ひひ、この通り♡  
美柑は死に続けながらも  
主人のち○ぽを気持ちよく  
するように躡けてあるんだ♡  
何度意識が飛んでも  
身体が勝手に動くよう  
仕込んである♡」

「出産と言えはやはり  
最初のは特によかった  
ですねぇ♡」  
「ああ、あの学校で  
産ませたやつですな？  
あのときはリトくんの  
反応も最高だった♡」

「最近はお産で壊すのにも  
飽きてきてな♡  
こうやって手軽に潰して  
遊んでるんだ♡  
どんなに追い詰めても  
リトくんの反応も  
鈍ってきたしな(笑)」

「おらへバるなよ  
美柑♡♡♡  
射精すぞ♡♡♡  
最後のご主人様精子  
きちんと内臓で  
受け止めるっ♡」

















『おっぱいー尻尻ー』  
『ふんふんー』





『まおは二千万から—  
ぶんぐ』



ぶんぐ

まお

まお

まお

まお

まおは二千万から—  
ぶんぐ

まおは二千万から—  
ぶんぐ

まお



『おちおち一千万からー』  
『ふんふん』





おしまい❤️